

令和6年度
スポーツに関する市民アンケート報告書

令和6年11月
松本市

目次

第1章 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査対象・調査方法・回答結果	1
3. 調査結果を見る際の留意点	1
第2章 調査結果	2
1. 回答者の属性等	3
2. スポーツを「する」人の状況	5
(1) スポーツの実施状況	5
(2) 現在、スポーツをしている人の活動状況	6
(3) 現在、スポーツをしていない人の状況	11
(4) 今後取り組みたいスポーツ	13
(5) スポーツイベント・行事への参加状況	14
(6) スポーツ施設	18
(7) スポーツ団体・グループへの加入状況	20
(8) 総合型地域スポーツクラブの認知度	23
3. スポーツを「みる」人の状況	24
4. スポーツを「ささえる」人の状況	28
5. スポーツに関する情報入手方法・知りたい情報	30
(1) 情報の入手方法	30
(2) 知りたい情報	32
6. パラスポーツの状況	33
7. 子どもとスポーツ・中学校部活動の地域移行	35
(1) 子どもの運動する機会の充実について	35
(2) 中学校部活動の地域移行について	36
8. スポーツ推進に向けた松本市への期待・力を入れてほしいこと・満足度	37
(1) スポーツ推進に向けた松本市への期待	37
(2) スポーツ推進に向け松本市に力を入れてほしいこと	38
(3) 松本市のスポーツ環境の満足度	40
第3章 考察	45
1. スポーツ実施状況・今後の意向など	46
(1) スポーツの実施状況	46
(2) 女性や若い世代がスポーツを実施していない理由	46
(3) 女性や若い世代が今後スポーツに取り組むための条件・今後取り組みたい種目	47
(4) スポーツイベント・行事への参加状況	48
2. スポーツの観戦や支える活動の状況	50
(1) スポーツの観戦状況	50
(2) スポーツ関係のボランティア活動	50
3. パラスポーツの状況	51
4. スポーツ推進計画に対する期待 ～指導者育成、施設、子どものスポーツ活動	52
(1) スポーツ推進のため力を入れてほしいこと	52
(2) スポーツ指導者の育成	52
(3) スポーツ施設の整備・拡充	53
(4) 学校体育、子どものスポーツ活動・体力づくりの支援	53

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

市民のスポーツの「する」「みる」「ささえる」におけるそれぞれの活動状況や、スポーツ情報の入手方法、スポーツ推進に向け松本市に力を入れてほしいことなどを把握し、松本市スポーツ推進計画の施策等を検討する際の基礎資料とするために実施した調査である。

2. 調査対象・調査方法・回答結果

- 対 象 者：18 歳以上の市民（無作為抽出）
- 人 数：1,000 人
- 実 施 期 間：令和6年6月1日（土）～30日（日）
- 調査依頼方法：郵送によって配布し、回答は紙の調査票か web 回答か選択可能とした
- 回 収 数：323 人
- 回 収 率：32.3%

3. 調査結果を見る際の留意点

- 報告書のパーセント数字は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合や文中に示す数値とグラフの数値が一致しない場合がある。
- 図表内の n は該当する設問の回答者数を表す。無回答を除いて集計しているため、設問ごとに回答者数が異なる。
- 1 人の回答者が2つ以上の回答をすることができる複数回答の設問では、回答数の合計を回答者数（n）で割った比率を示しており、比率の合計は100%を超える。
- 同様の調査を平成26年1月にも実施しており、一部の項目で経年比較分析を行っている。スポーツの実施頻度や観戦状況などの設問では、前年1年間の状況を聞いている。令和6年調査では、令和5年度の期間あり、平成26年調査では過去1年の期間を指す。

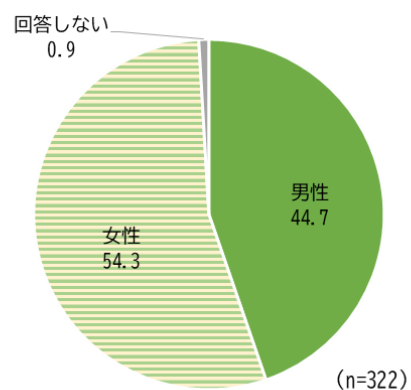
第2章 調査結果

1. 回答者の属性等

- 回答者の性別は男性が 44.7%、女性が 54.3%である。
- 回答者の年齢は 60 代の割合が 22.6%で最も高く、次いで 50 代が 18.3%、70 代以上が 18.0%である。
- 回答者の職業は会社員・公務員の割合が 39.3%で最も高く、次いでパート・アルバイトが 18.1%、主婦・主夫が 17.4%である。

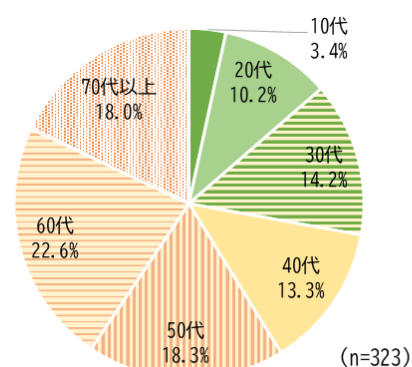
図表 1 性別

	人数	割合 (%)
男性	144	44.7
女性	175	54.3
回答しない	3	0.9
合計	322	100.0



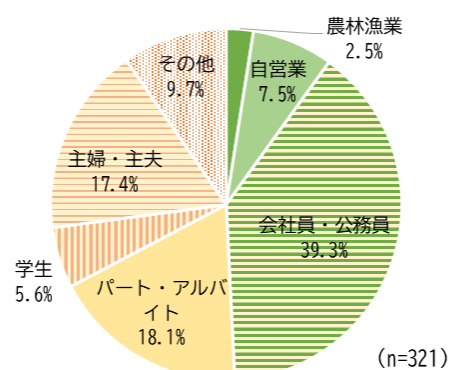
図表 2 年齢

	人数	割合 (%)
10代	11	3.4
20代	33	10.2
30代	46	14.2
40代	43	13.3
50代	59	18.3
60代	73	22.6
70代以上	58	18.0
合計	323	100.0



図表 3 職業

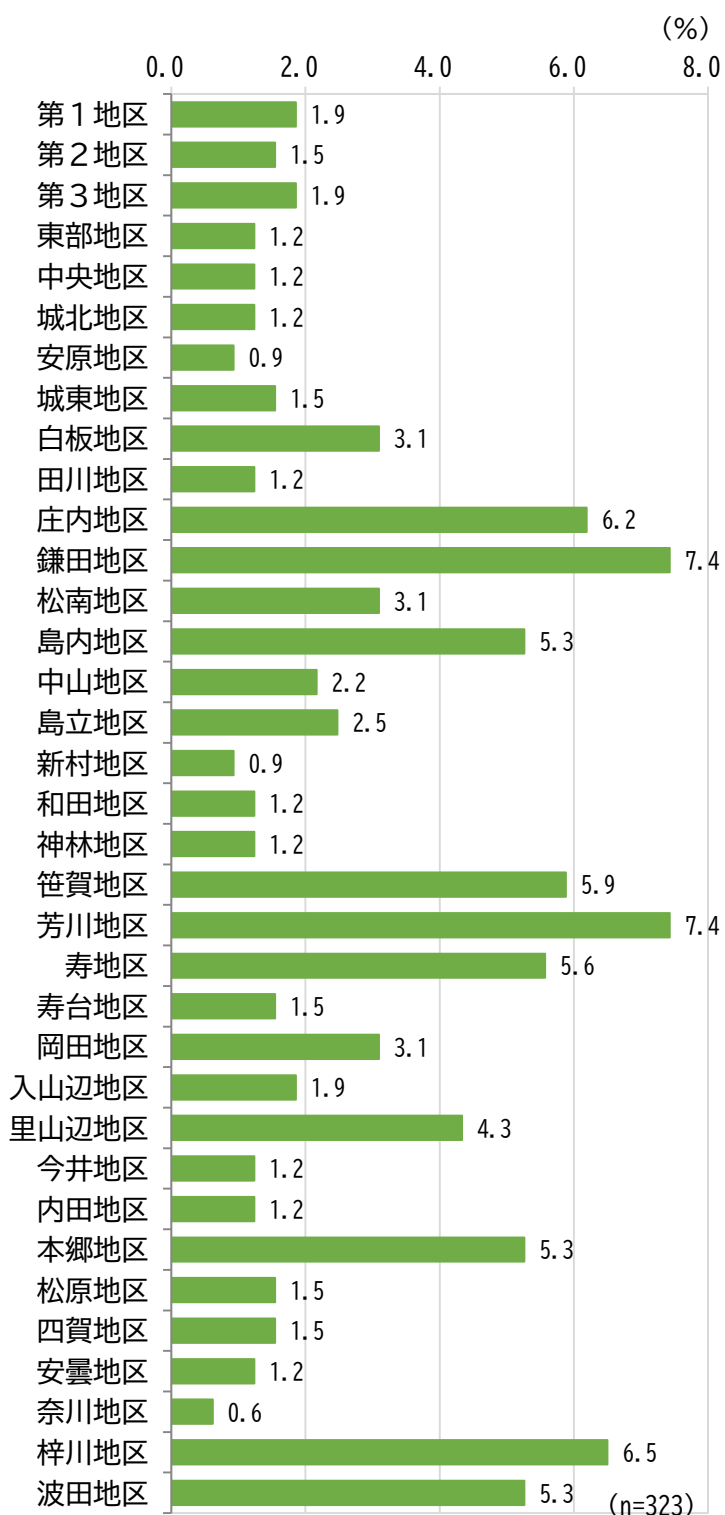
	人数	割合 (%)
農林漁業	8	2.5
自営業	24	7.5
会社員・公務員	126	39.3
パート・アルバイト	58	18.1
学生	18	5.6
主婦・主夫	56	17.4
その他	31	9.7
合計	321	100.0



- 回答者の居住地区は、鎌田地区と芳川地区の割合が 7.4%で高く、次いで梓川地区が 6.5%、庄内地区が 6.2%である。

図表 4 居住地区

	人数	割合 (%)
第1地区	6	1.9
第2地区	5	1.5
第3地区	6	1.9
東部地区	4	1.2
中央地区	4	1.2
城北地区	4	1.2
安原地区	3	0.9
城東地区	5	1.5
白板地区	10	3.1
田川地区	4	1.2
庄内地区	20	6.2
鎌田地区	24	7.4
松南地区	10	3.1
島内地区	17	5.3
中山地区	7	2.2
島立地区	8	2.5
新村地区	3	0.9
和田地区	4	1.2
神林地区	4	1.2
笹賀地区	19	5.9
芳川地区	24	7.4
寿地区	18	5.6
寿台地区	5	1.5
岡田地区	10	3.1
入山辺地区	6	1.9
里山辺地区	14	4.3
今井地区	4	1.2
内田地区	4	1.2
本郷地区	17	5.3
松原地区	5	1.5
四賀地区	5	1.5
安曇地区	4	1.2
奈川地区	2	0.6
梓川地区	21	6.5
波田地区	17	5.3
合計	323	100.0

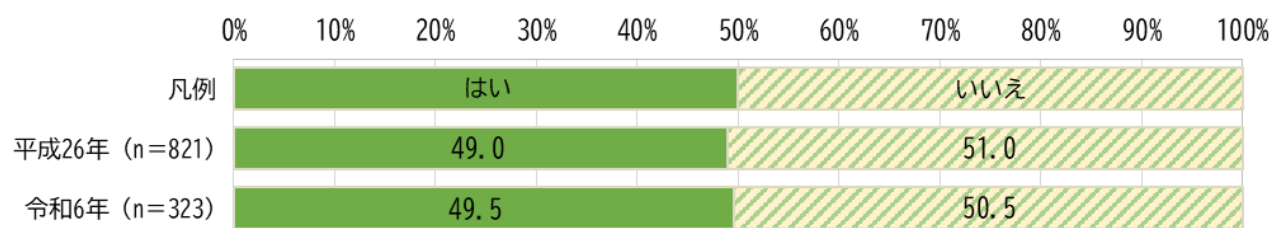


2. スポーツを「する」人の状況

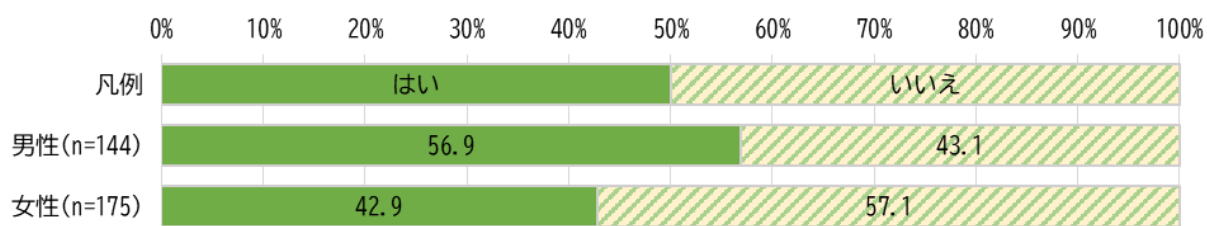
(1) スポーツの実施状況

- 回答者のうち、現在スポーツをしている人は49.5%であり、平成26年から横ばいである。
- 男女別にみると、スポーツをしている男性は56.9%であるのに対し女性は42.9%で、男性の方が実施している割合が高くなっている。
- 年代別にみると、実施している人の割合が最も高いのは70代以上で67.2%、次いで60代である。実施している人の割合が最も低いのは40代で37.2%、次いで30代、10・20代と、若い世代で実施率が低い傾向がある。

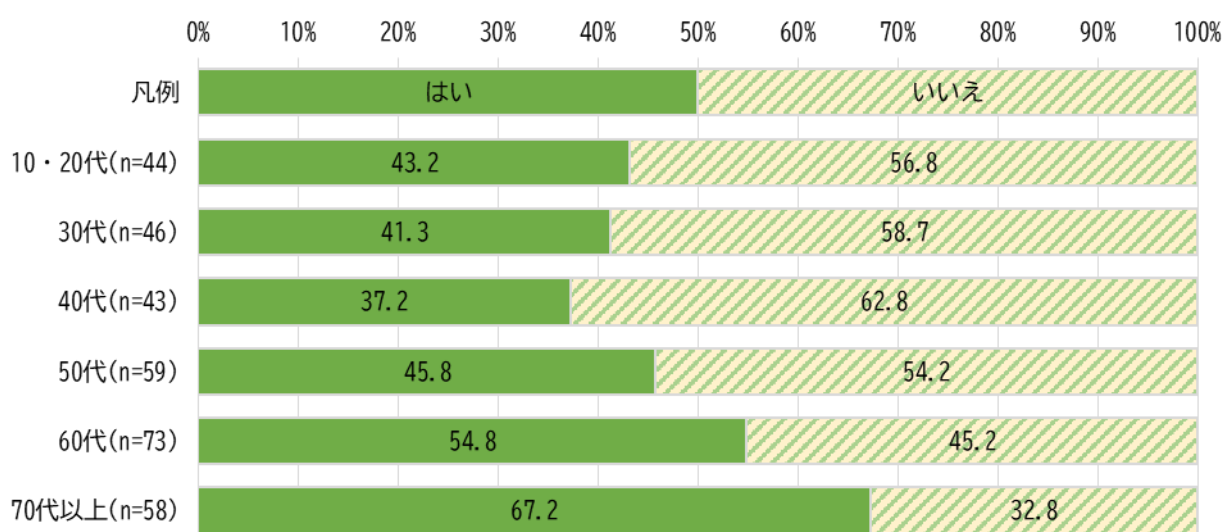
図表 5 現在スポーツをしているか



図表 6 〈男女別〉現在スポーツをしているか



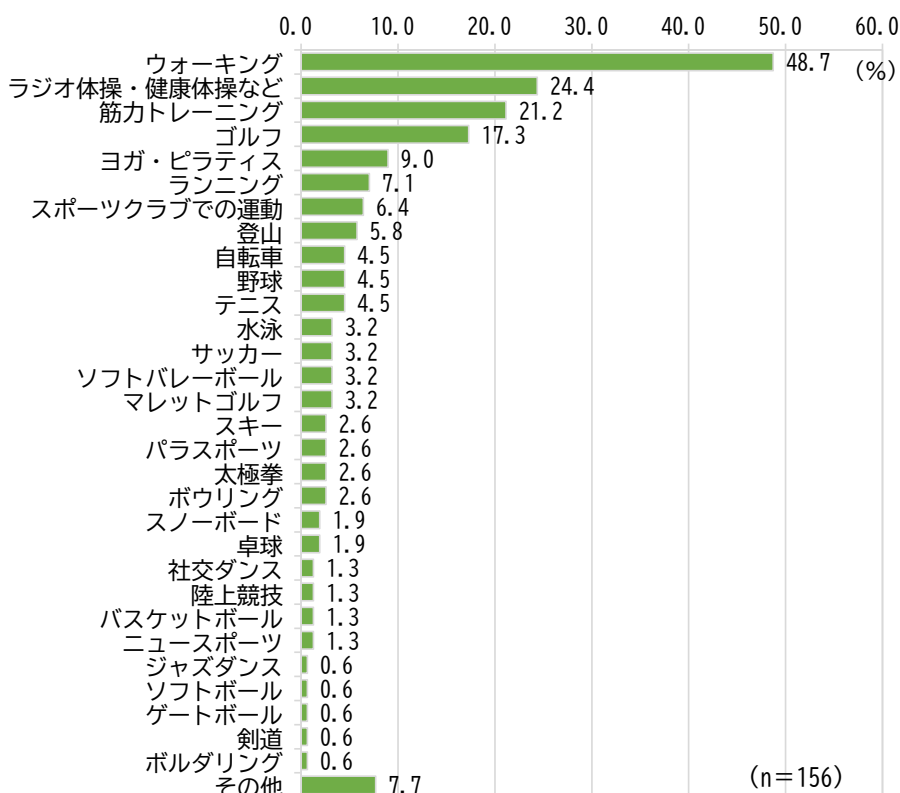
図表 7 〈年代別〉現在スポーツをしているか



(2) 現在、スポーツをしている人の活動状況

- ・ 現在スポーツをしている人に、その内容を聞くと、「ウォーキング」の割合が 48.7%で最も高く、次いで「ラジオ体操・健康体操など」、「筋力トレーニング」、「ゴルフ」が高い。
- ・ 男女別にみると、男女ともに「ウォーキング」が首位である。また、男性では「ゴルフ」や「登山」が、女性では「ヨガ・ピラティス」や「スポーツクラブでの運動」が上位に入っている。
- ・ 年代別には、いずれの年代でも「ウォーキング」が首位である。

図表 8 回答対象者：現在スポーツをしている人 どんなスポーツをしているか〔自由記述〕



図表 9 回答対象者：現在スポーツをしている人

〈男女別上位5〉どんなスポーツをしているか〔自由記述〕

男性		女性	
種目名	割合 (%)	種目名	割合 (%)
ウォーキング	42.5	ウォーキング	54.1
ゴルフ	26.3	ラジオ体操・健康体操など	31.1
ラジオ体操・健康体操など	16.3	筋力トレーニング	28.4
筋力トレーニング	13.8	ヨガ・ピラティス	18.9
登山	8.8	スポーツクラブでの運動	9.5

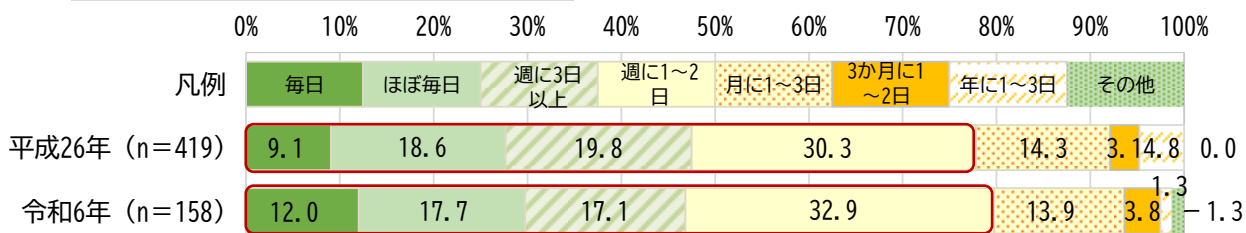
図表 10 回答対象者：現在スポーツをしている人

〈年代別上位3〉どんなスポーツをしているか〔自由記述〕

	1位	2位	3位
10・20代	ウォーキング	筋力トレーニング	ラジオ体操・健康体操など／ ヨガ・ピラティス／ スポーツクラブでの運動
30代	ウォーキング	筋力トレーニング	ランニング／ヨガ・ピラティス
40代	ウォーキング／筋力トレーニング	ラジオ体操・健康体操など	—
50代	ウォーキング	ゴルフ	筋力トレーニング
60代	ウォーキング	ラジオ体操・健康体操など	ゴルフ
70代以上	ウォーキング	ラジオ体操・健康体操など	ゴルフ

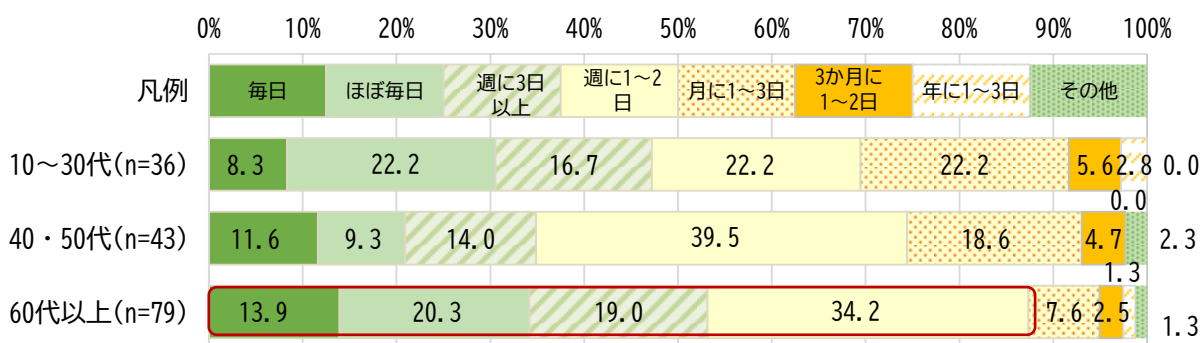
- スポーツの実施頻度をみると、週に1回以上の割合は79.7%であり、実施している人の多くは定期的にスポーツを行っている。この傾向は平成26年調査と同様である。
- 年代別にみると、週に1回以上の割合は、60代以上で高くなっている。
- スポーツを行う1回あたりの時間は、1時間以内の人が63.9%である。平成26年の1時間以内の割合は50.4%であり、スポーツの実施時間が短くなっている。
- スポーツを行う時間帯は、「午前」の割合が38.8%で最も高く、次いで「午後」が28.8%である。平成26年には「午後」の割合が41.0%で最も高かったが、今回は12.2ポイント減少している。

図表 11 回答対象者：現在スポーツをしている人 前年1年間にスポーツを行った頻度

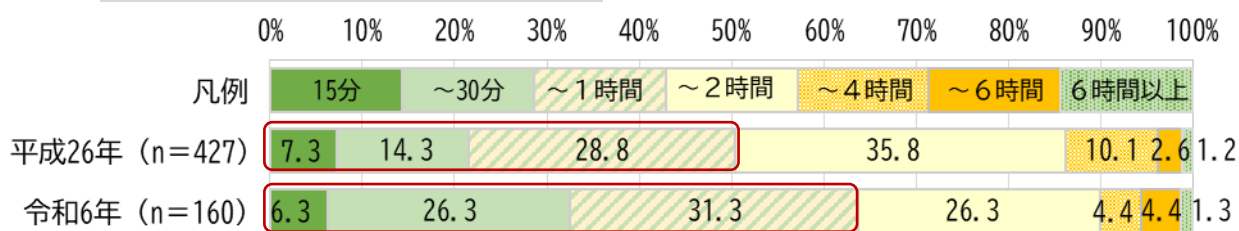


図表 12 回答対象者：現在スポーツをしている人

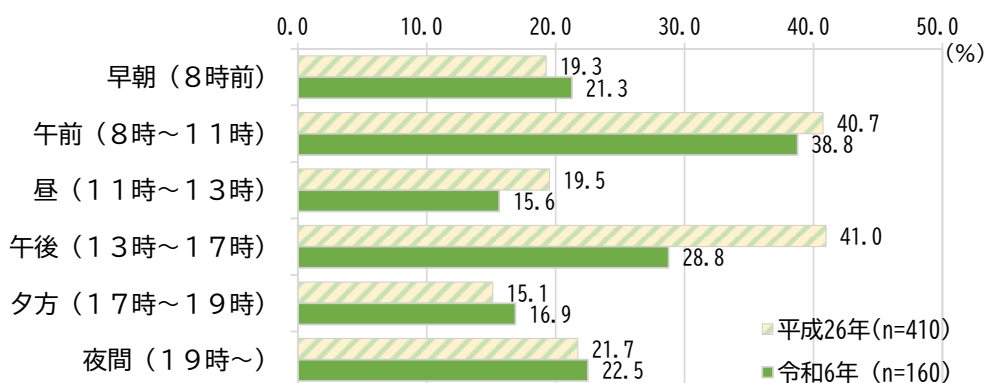
〈年代別〉令和5年4月1日~令和6年3月31日の1年間にスポーツを行った頻度



図表 13 回答対象者：現在スポーツをしている人 スポーツを行う1回あたりの時間

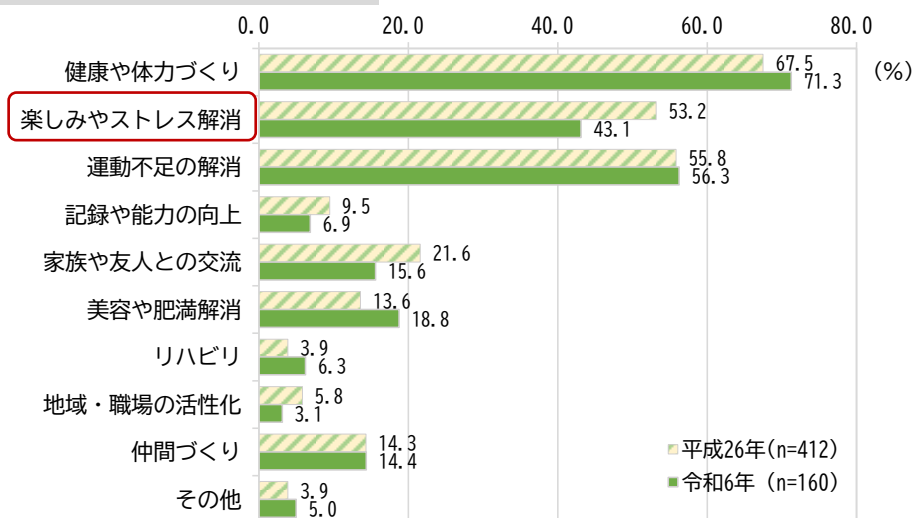


図表 14 回答対象者：現在スポーツをしている人 スポーツを行う時間帯〔複数回答〕

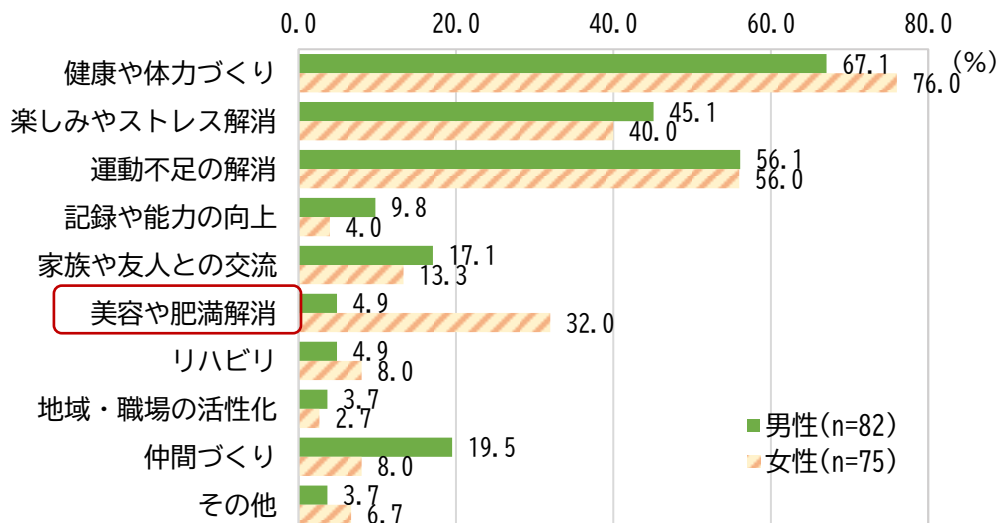


- スポーツをする目的は、「健康や体力づくり」の割合が最も高く 71.3%、次いで「運動不足の解消」が 56.3%、「楽しみやストレス解消」が 43.1%である。平成 26 年と比べると、「楽しみやストレス解消」は 10.1 ポイント減少している。
- 男女別にみると、差が大きいのは「美容や肥満解消」であり、特に女性が目的としている。
- 年代別にみると、年代が上がるにつれ「健康や体力づくり」の割合は高まっている。10～30 代では「美容や肥満解消」の割合が高く、「運動不足の解消」を超えて 3 位となっている。

図表 15 回答対象者：現在スポーツをしている人 スポーツを行う目的〔複数回答〕



図表 16 回答対象者：現在スポーツをしている人 〈男女別〉スポーツを行う目的〔複数回答〕

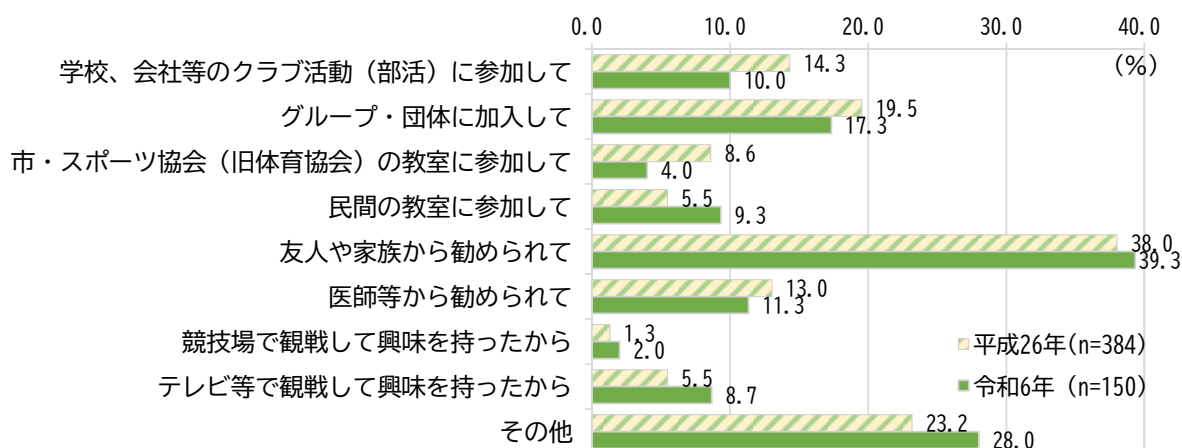


図表 17 回答対象者：現在スポーツをしている人 〈年代別〉スポーツを行う目的〔複数回答〕

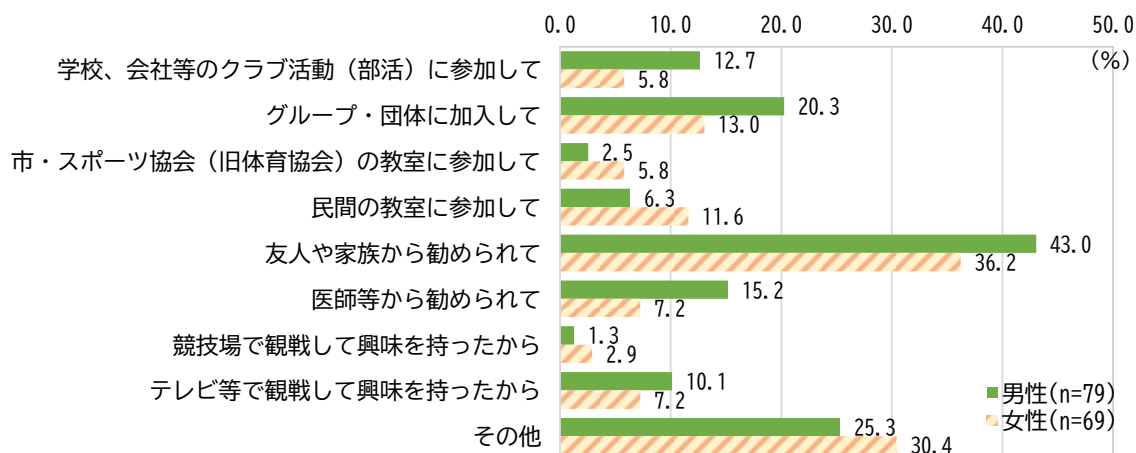
	10～30代(n=38)	40・50代(n=43)	60代以上(n=79)
	(%)	(%)	(%)
健康や体力づくり	63.2	65.1	78.5
楽しみやストレス解消	55.3	44.2	36.7
運動不足の解消	42.1	65.1	58.2
記録や能力の向上	13.2	7.0	3.8
家族や友人との交流	23.7	16.3	11.4
美容や肥満解消	44.7	20.9	5.1
リハビリ	2.6	2.3	10.1
地域・職場の活性化	2.6	0.0	5.1
仲間づくり	13.2	2.3	21.5
その他	5.3	7.0	3.8

- スポーツを始めたきっかけは、「友人や家族から勧められて」の割合が 39.3%で最も高い。
- 男女別にみると、多くの項目において女性よりも男性で割合が高い。特に「医師等から勧められて」では女性を 8.0 ポイント上回っている。
- 年代別にみると、いずれの年代でも「友人や家族から勧められて」が最も高い割合となっている。10～30 代では「グループ・団体に加入して」「学校、会社等のクラブ活動に参加して」の割合が他の年代に比べて高く、それぞれ 2 割程度となっている。

図表 18 回答対象者：現在スポーツをしている人
スポーツを始めた（再開した）きっかけ【複数回答】



図表 19 回答対象者：現在スポーツをしている人
〈男女別〉スポーツを始めた（再開した）きっかけ【複数回答】



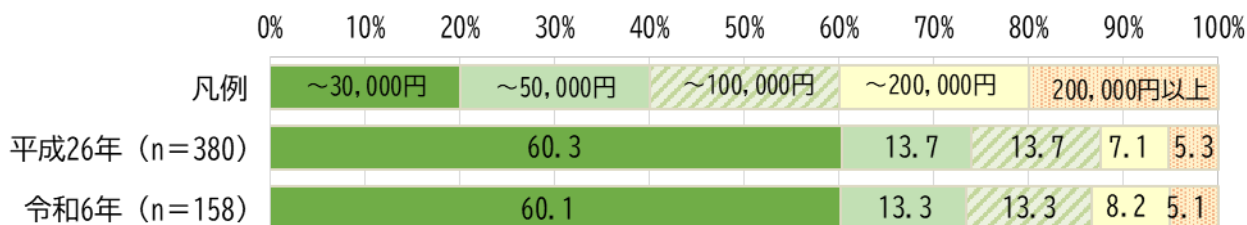
図表 20 回答対象者：現在スポーツをしている人
〈年代別〉スポーツを始めた（再開した）きっかけ【複数回答】

	10～30代(n=36) (%)	40・50代(n=41) (%)	60代以上(n=73) (%)
学校、会社等のクラブ活動（部活）に参加して	19.4	4.9	8.2
グループ・団体に加入して	22.2	9.8	19.2
市・スポーツ協会（旧体育協会）の教室に参加して	0.0	2.4	6.8
民間の教室に参加して	11.1	0.0	13.7
友人や家族から勧められて	25.0	41.5	45.2
医師等から勧められて	2.8	14.6	13.7
競技場で観戦して興味を持ったから	2.8	2.4	1.4
テレビ等で観戦して興味を持ったから	5.6	9.8	9.6
その他	30.6	29.3	26.0

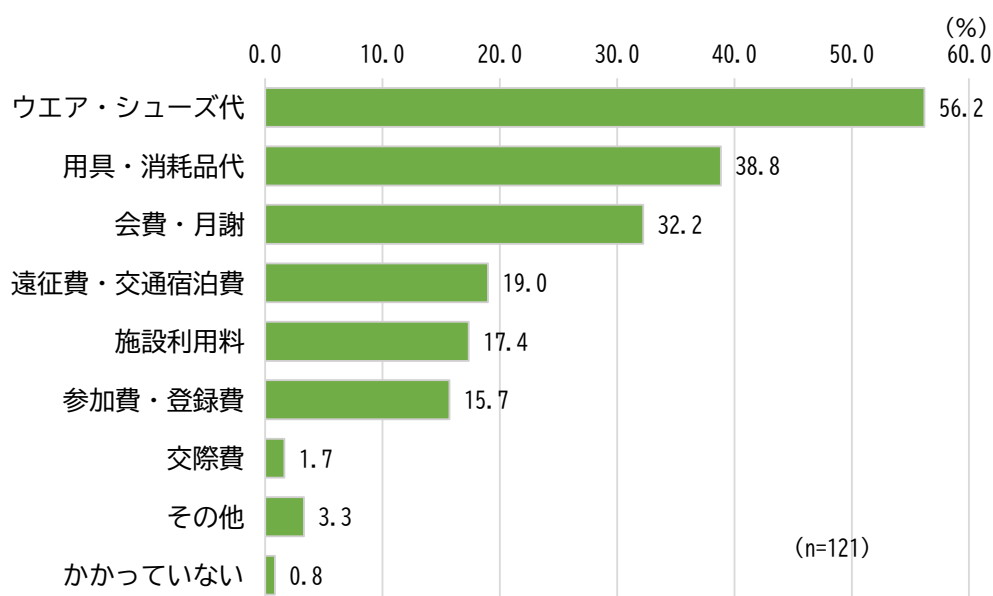
- 令和5年度にスポーツにかけた費用は、3万円以下の割合が60.1%で最も高く、平成26年と比べて、傾向に大きな変化はない。
- 主な支出の内容を聞くと、「ウェア・シューズ代」と答えた人の割合が56.2%で最も高く、次いで「用具・消耗品代」が38.8%、「会費・月謝」が32.2%である。

図表 21 回答対象者：現在スポーツをしている人

令和5年4月1日～令和6年3月31日の1年間でスポーツにかけた費用



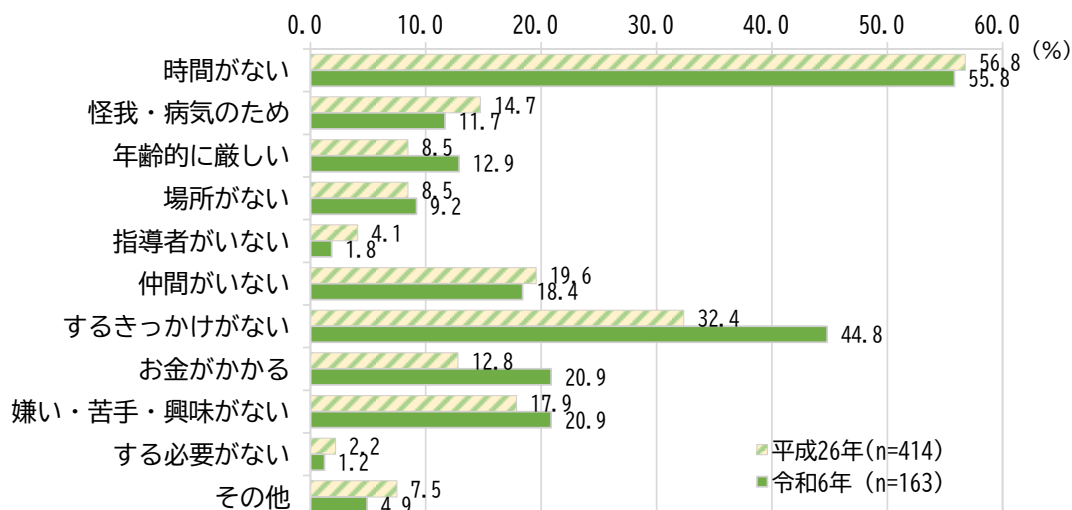
図表 22 回答対象者：現在スポーツをしている人 主な支出の内容【自由記述】



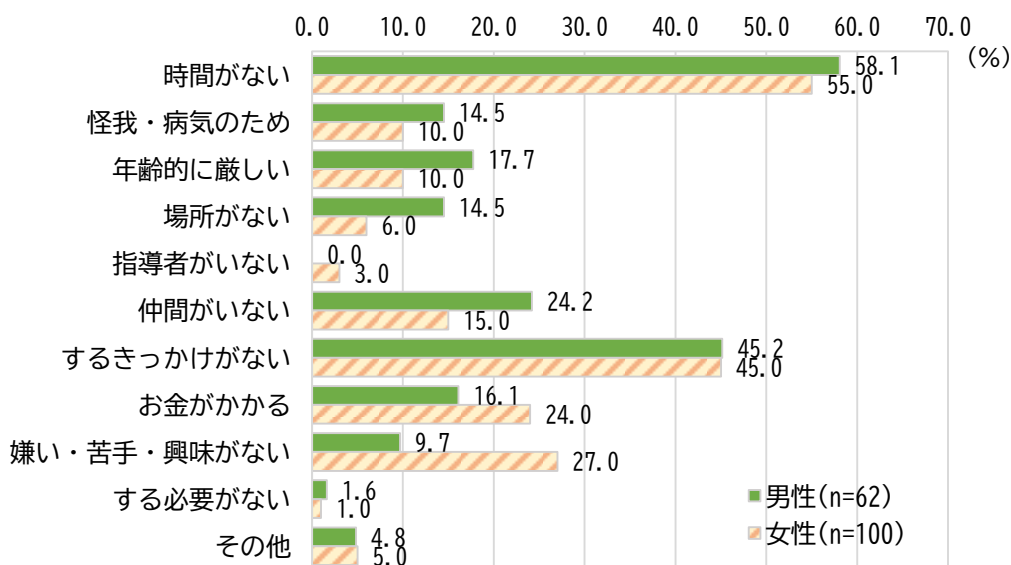
(3) 現在、スポーツをしていない人の状況

- ・ 現在、スポーツをしていない人にその理由を聞くと、「時間がない」の割合が 55.8%で最も高い。次に高い「するきっかけがない」は 44.8%で、平成 26 年の 32.4%から 12.4 ポイント増加している。
- ・ 男女の傾向の違いが大きいのは「嫌い・苦手・興味がない」で、女性の方が 17.3 ポイント高い。
- ・ 年代別にみると、50 代以下で「時間がない」「するきっかけがない」の割合が高い傾向にある。

図表 23 回答対象者：現在スポーツをしていない人 スポーツをしていない理由〔複数回答〕



図表 24 回答対象者：現在スポーツをしていない人〈男女別〉スポーツをしていない理由〔複数回答〕

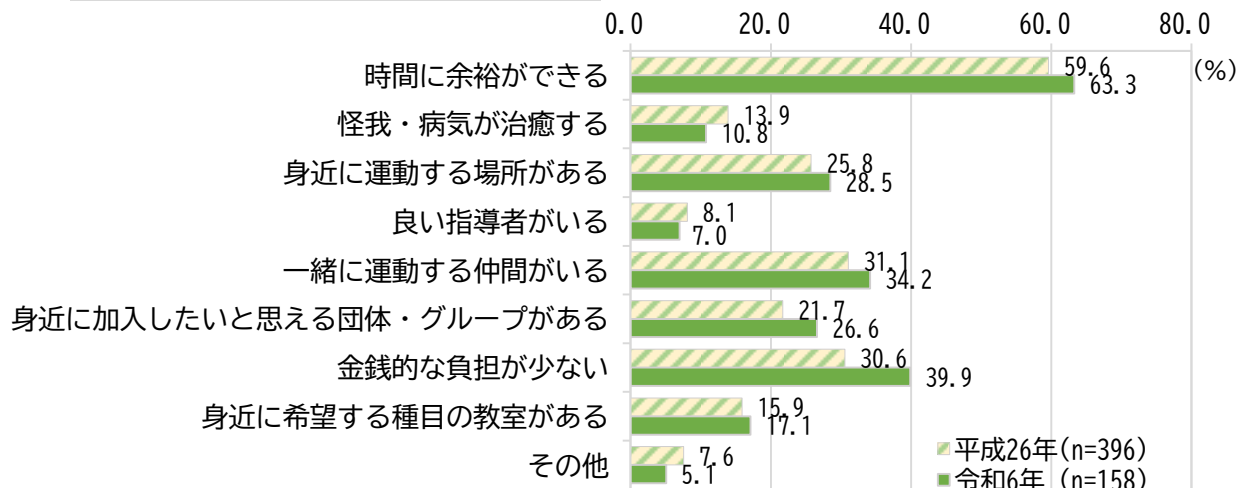


図表 25 回答対象者：現在スポーツをしていない人〈年代別〉スポーツをしていない理由〔複数回答〕

	10～30代(n=52) (%)	40・50代(n=59) (%)	60代以上(n=52) (%)
時間がない	67.3	62.7	36.5
怪我・病気のため	3.8	11.9	19.2
年齢的に厳しい	0.0	8.5	30.8
場所がない	15.4	6.8	5.8
指導者がいない	3.8	0.0	1.9
仲間がいない	21.2	20.3	13.5
するきっかけがない	50.0	49.2	34.6
お金がかかる	21.2	32.2	7.7
嫌い・苦手・興味がない	30.8	16.9	15.4
する必要がない	1.9	0.0	1.9
その他	3.8	5.1	5.8

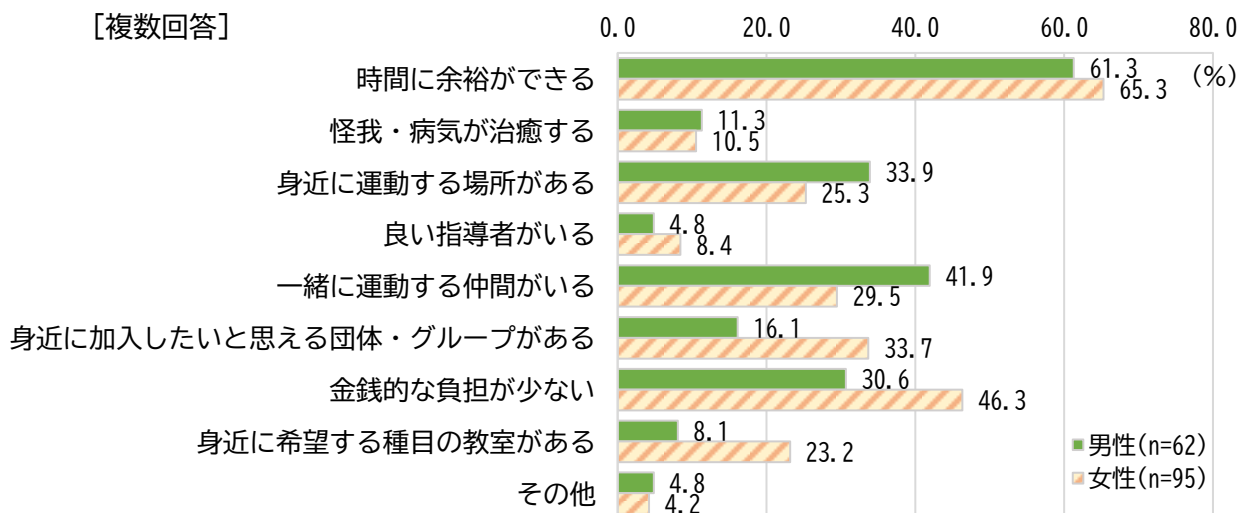
- スポーツに取り組むための条件は「時間に余裕ができる」の割合が 63.3%で最も高く、次いで「金銭的な負担が少ない」が 39.9%、「一緒に運動する仲間がいる」が 34.2%である。
- 男女別にみると、女性で「身近に加入したいと思える団体・グループがある」「金銭的な負担が少ない」「身近に希望する種目の教室がある」が高い。男性は「一緒に運動する仲間がいる」が高い。
- 年齢別にみると、50 代以下で「時間に余裕ができる」の割合が最も高い。

図表 26 回答対象者：現在スポーツをしていない人スポーツに取り組むための条件〔複数回答〕



図表 27 回答対象者：現在スポーツをしていない人〈男女別〉スポーツに取り組むための条件

〔複数回答〕



図表 28 回答対象者：現在スポーツをしていない人〈年代別〉スポーツに取り組むための条件

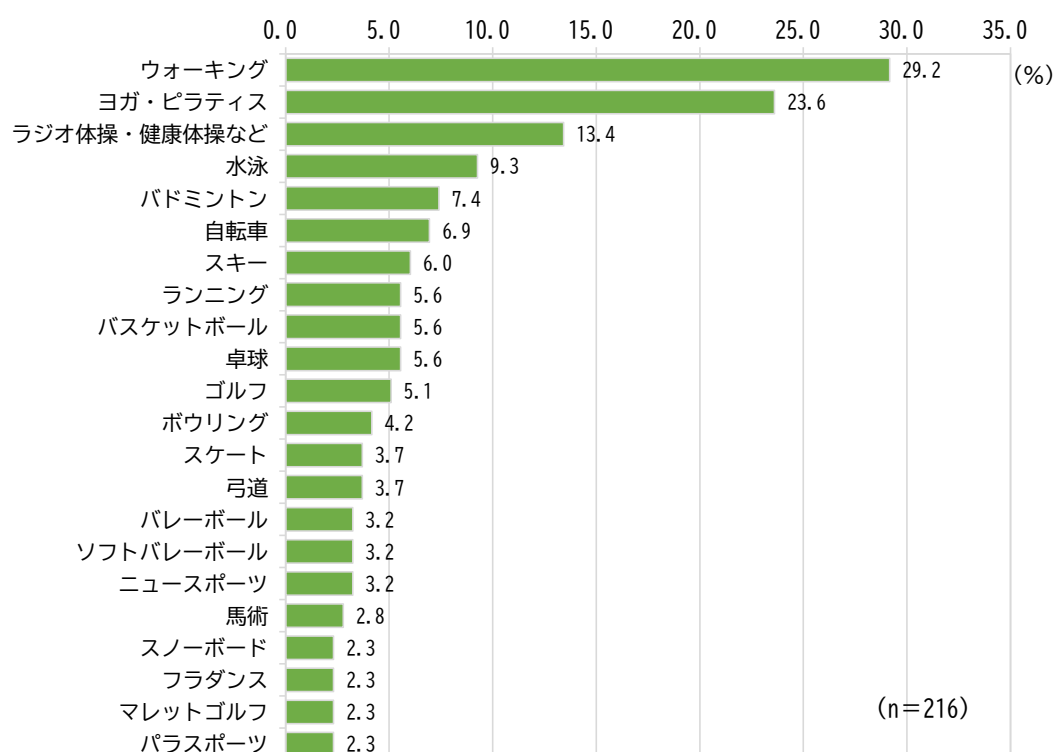
〔複数回答〕

	10～30代(n=52) (%)	40・50代(n=59) (%)	60代以上(n=47) (%)
時間に余裕ができる	71.2	74.6	40.4
怪我・病気が治癒する	3.8	11.9	17.0
身近に運動する場所がある	36.5	23.7	25.5
良い指導者がいる	5.8	1.7	14.9
一緒に運動する仲間がいる	38.5	30.5	34.0
身近に加入したいと思える団体・グループがある	36.5	23.7	19.1
金銭的な負担が少ない	42.3	49.2	25.5
身近に希望する種目の教室がある	13.5	25.4	10.6
その他	7.7	3.4	4.3

(4) 今後取り組みたいスポーツ

- ・ 今後取り組みたいスポーツは、「ウォーキング」の割合が29.2%で最も高く、次いで「ヨガ・ピラティス」が23.6%である。
- ・ 男女別にみると、男性では「ウォーキング」の割合が最も高く、次いで「自転車」である。
- ・ 女性では「ヨガ・ピラティス」の割合が最も高く、次いで「ウォーキング」である。
- ・ 年代別では、いずれの年代でも上位に入っているのは「ウォーキング」である。「ヨガ・ピラティス」は60代以下、特に40代以下で上位に入った。50代以上では「ラジオ体操・健康体操など」が上位に入った。

図表 29 今後取り組みたいスポーツ〔自由記述〕※5人以上回答があったスポーツ



図表 30 〈男女別〉今後取り組みたいスポーツ〔自由記述〕

男性		女性	
種目名	割合 (%)	種目名	割合 (%)
ウォーキング	25.0	ヨガ・ピラティス	36.0
自転車	11.4	ウォーキング	32.8
水泳	10.2	ラジオ体操・健康体操など	17.6
スキー	10.2	水泳	8.8
ランニング	9.1	バドミントン	8.0

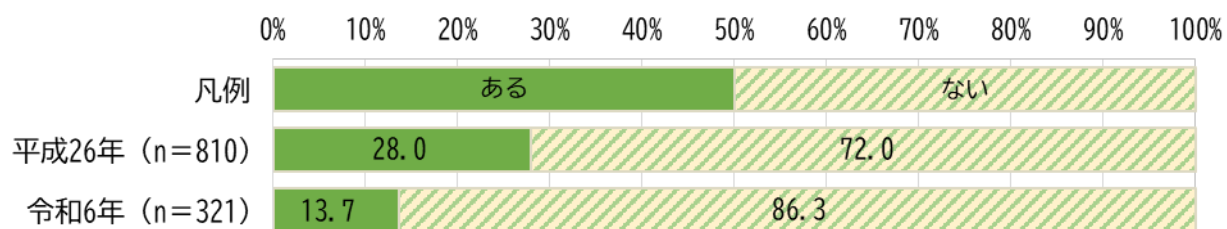
図表 31 〈年代別〉今後取り組みたいスポーツ〔自由記述〕

	1位	2位	3位
10・20代	ヨガ・ピラティス	ウォーキング	バレーボール／バスケットボール
30代	ウォーキング／ヨガ・ピラティス	バスケットボール	－
40代	ヨガ・ピラティス	ウォーキング／水泳／バドミントン	－
50代	ウォーキング	ヨガ・ピラティス	ラジオ体操・健康体操など
60代	ウォーキング	ヨガ・ピラティス	ラジオ体操・健康体操など
70代以上	ラジオ体操・健康体操など	ウォーキング	卓球

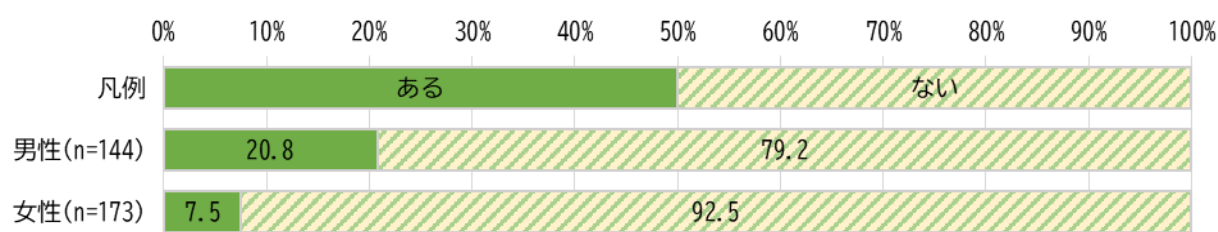
(5) スポーツイベント・行事への参加状況

- 令和5年度にスポーツイベント・行事に参加した人は13.7%で、平成26年の28.0%から14.3ポイント減少している。
- 男女別では、特に女性で、参加した人の割合が7.5%と低くなっている。
- 年代別では、30代～50代で1割前後となっており、特に40代は9.3%と最も低い。

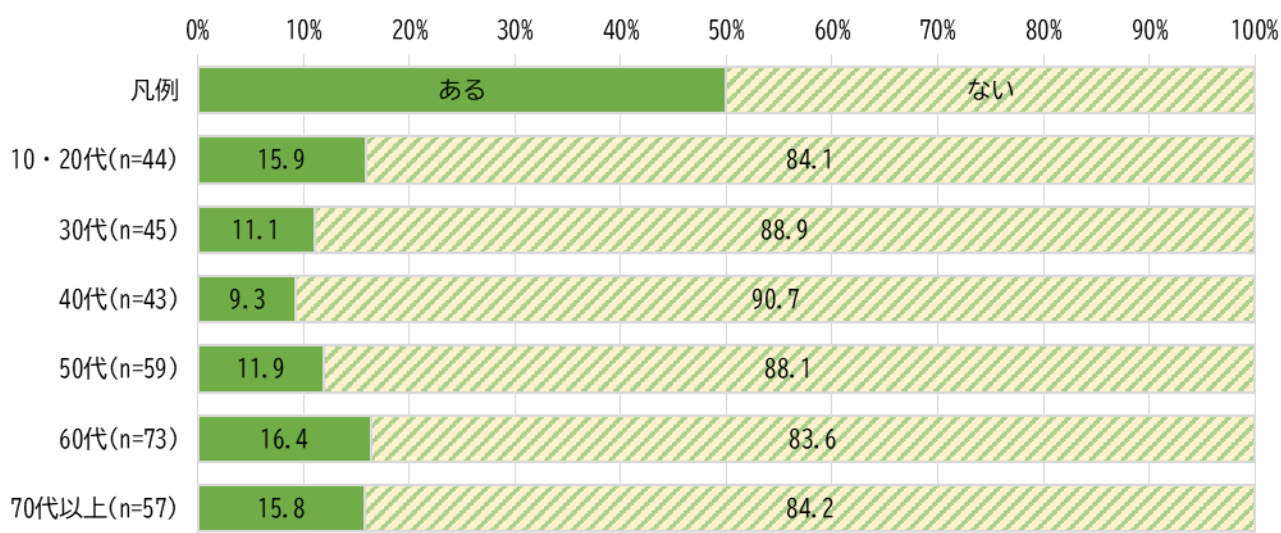
図表 32 前年1年間におけるスポーツイベント・行事への参加



図表 33 〈男女別〉令和5年度の1年間におけるスポーツイベント・行事への参加

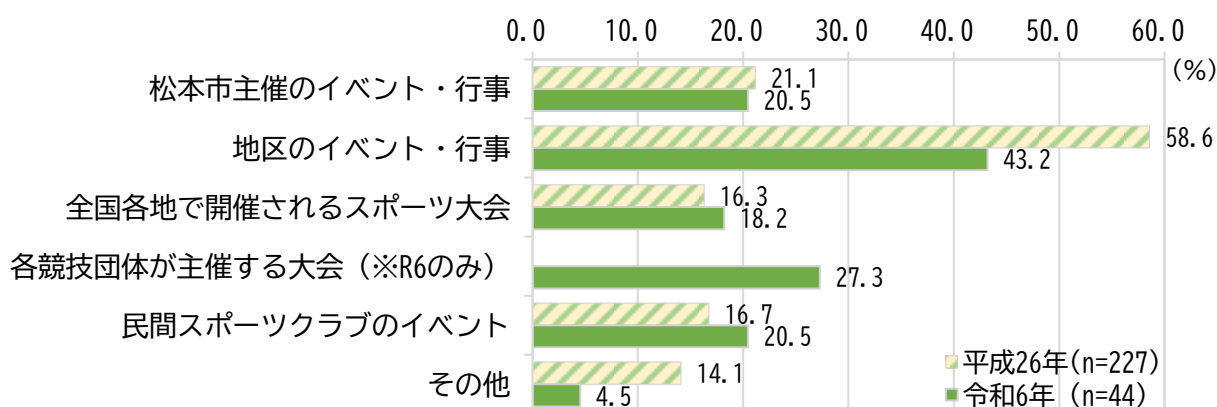


図表 34 〈年代別〉令和5年度の1年間におけるスポーツイベント・行事への参加

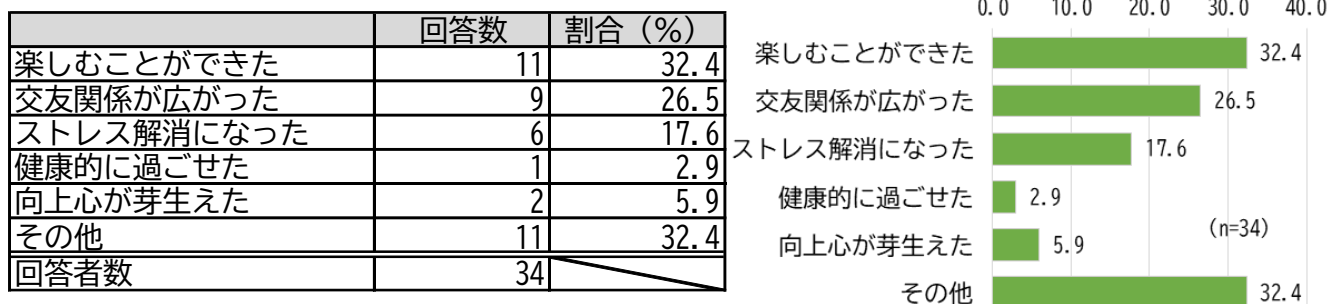


- 参加したイベント・行事としては、「地区のイベント・行事」の割合が43.2%で最も高いが、平成26年の58.6%からは15.4ポイント減少している。参加した感想は、「楽しむことができた」が32.4%、「交友関係が広がった」が26.5%、「ストレス解消になった」が17.6%である。
- 令和5年度にスポーツイベント・行事に参加しなかった人にその理由を聞くと、「仕事（家事・育児）が忙しいから」の割合が32.7%で最も高く、次いで「イベントや行事への参加は考えていない」が27.3%、「日程が合わないから」が24.0%であった。「日程が合わないから」や「機会がないから」と答えた人は、平成26年から5ポイント以上減少している。

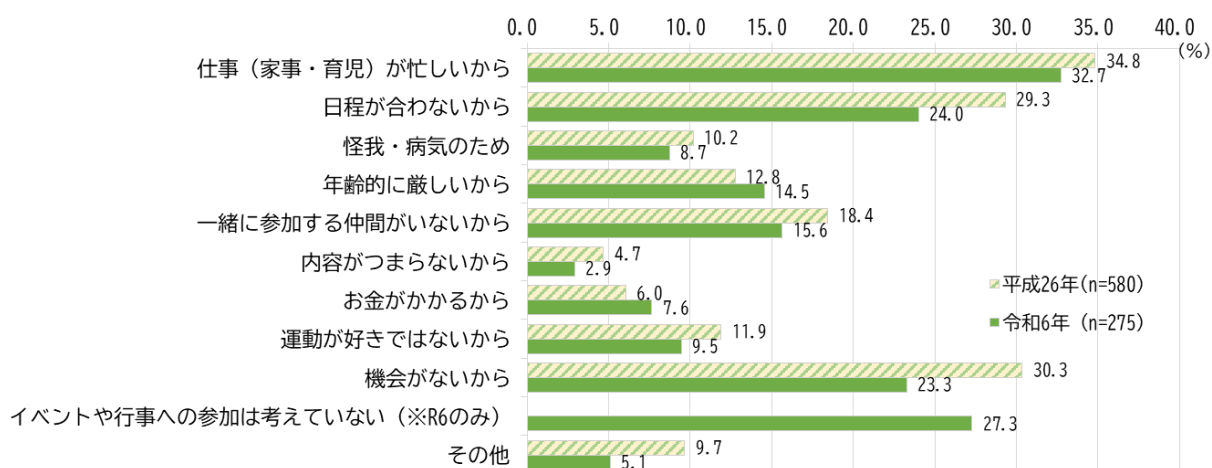
図表 35 回答対象者：前年1年間にスポーツイベント・行事に参加した人
参加したスポーツイベント・行事の種類〔複数回答〕



図表 36 回答対象者：令和5年度にスポーツイベント・行事に参加した人
スポーツイベント・行事に参加した感想〔自由記述〕

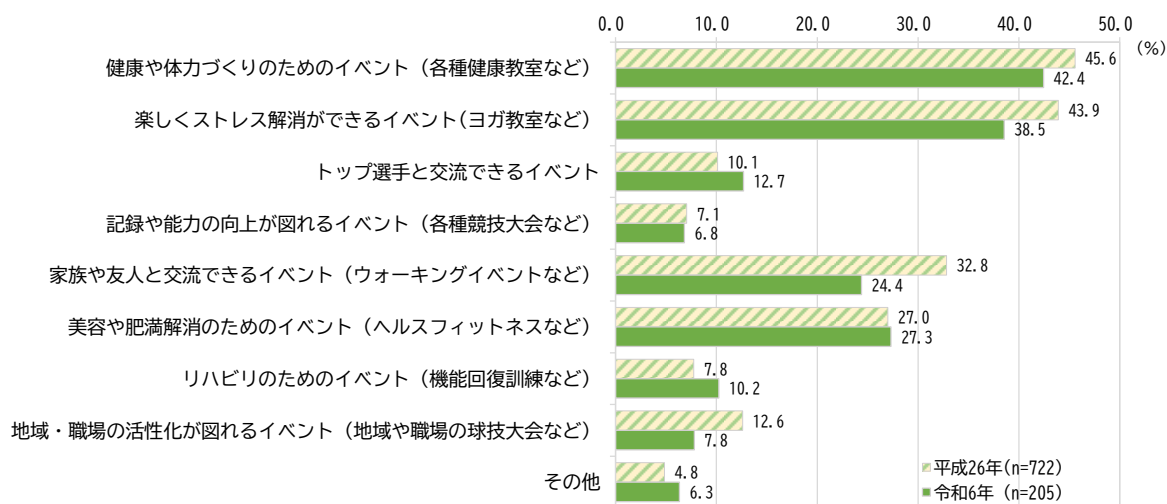


図表 37 回答対象者：前年1年間にスポーツイベント・行事に参加しなかった人
スポーツイベント・行事に参加しなかった理由〔複数回答〕

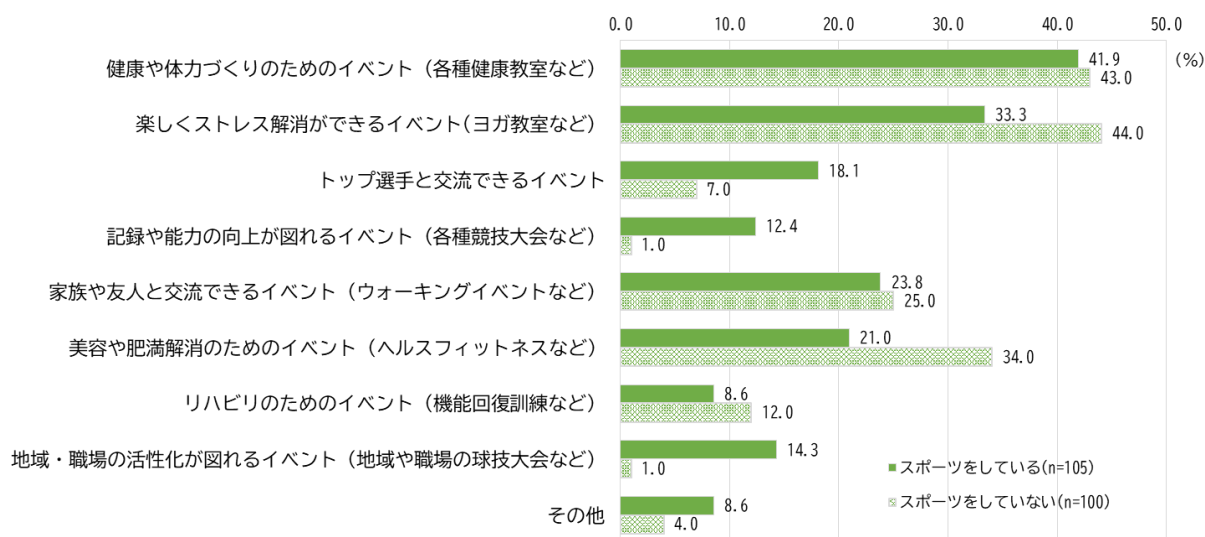


- 今後参加したいスポーツイベント・行事は、「健康や体力づくりのためのイベント」の割合が 42.4% で最も高く、次いで「楽しくストレス解消ができるイベント」が 38.5% である。
- スポーツの実施状況別にみると、スポーツを実施していない人では、「健康や体力づくりのためのイベント」「楽しくストレス解消ができるイベント」の他、「美容や肥満解消のためのイベント」が高くなっている。

図表 38 今後参加したいスポーツイベント・行事の内容〔複数回答〕

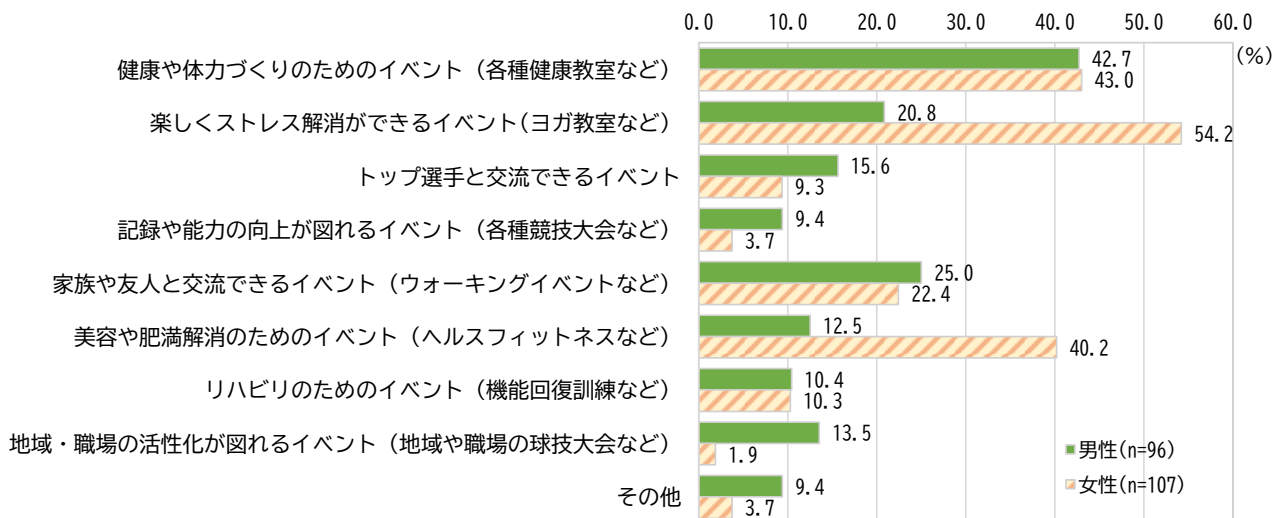


図表 39 〈スポーツの実施状況別〉今後参加したいスポーツイベント・行事の内容〔複数回答〕



- ・ 参加したいイベント・行事を男女別にみると、「楽しくストレス解消ができるイベント」や「美容や肥満解消のためのイベント」は女性のニーズが顕著に高くなっている。男性では「地域・職場の活性化が図れるイベント」のニーズが高い。
- ・ 年代別にみると、「健康や体力づくりのためのイベント」は年代が上がるにつれてニーズが高まっている。「トップ選手と交流できるイベント」「記録や能力の向上が図れるイベント」「美容や肥満解消のためのイベント」は10～30代でニーズが高くなっている。

図表 40 〈男女別〉今後参加したいスポーツイベント・行事の内容〔複数回答〕



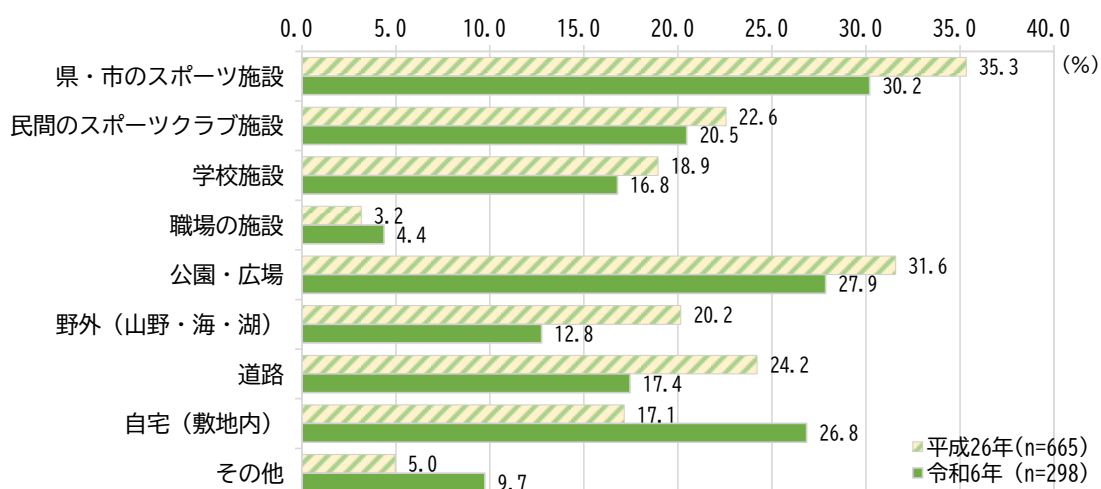
図表 41 〈年齢別〉今後参加したいスポーツイベント・行事の内容〔複数回答〕

	10～30代(n=44) (%)	40・50代(n=65) (%)	60代以上(n=96) (%)
健康や体力づくりのためのイベント（各種健康教室など）	15.9	36.9	58.3
楽しくストレス解消ができるイベント(ヨガ教室など)	45.5	43.1	32.3
トップ選手と交流できるイベント	27.3	12.3	6.3
記録や能力の向上が図れるイベント（各種競技大会など）	18.2	3.1	4.2
家族や友人と交流できるイベント（ウォーキングイベントなど）	27.3	30.8	18.8
美容や肥満解消のためのイベント（ヘルスフィットネスなど）	45.5	30.8	16.7
リハビリのためのイベント（機能回復訓練など）	9.1	4.6	14.6
地域・職場の活性化が図れるイベント（地域や職場の球技大会など）	9.1	6.2	8.3
その他	0.0	4.6	10.4

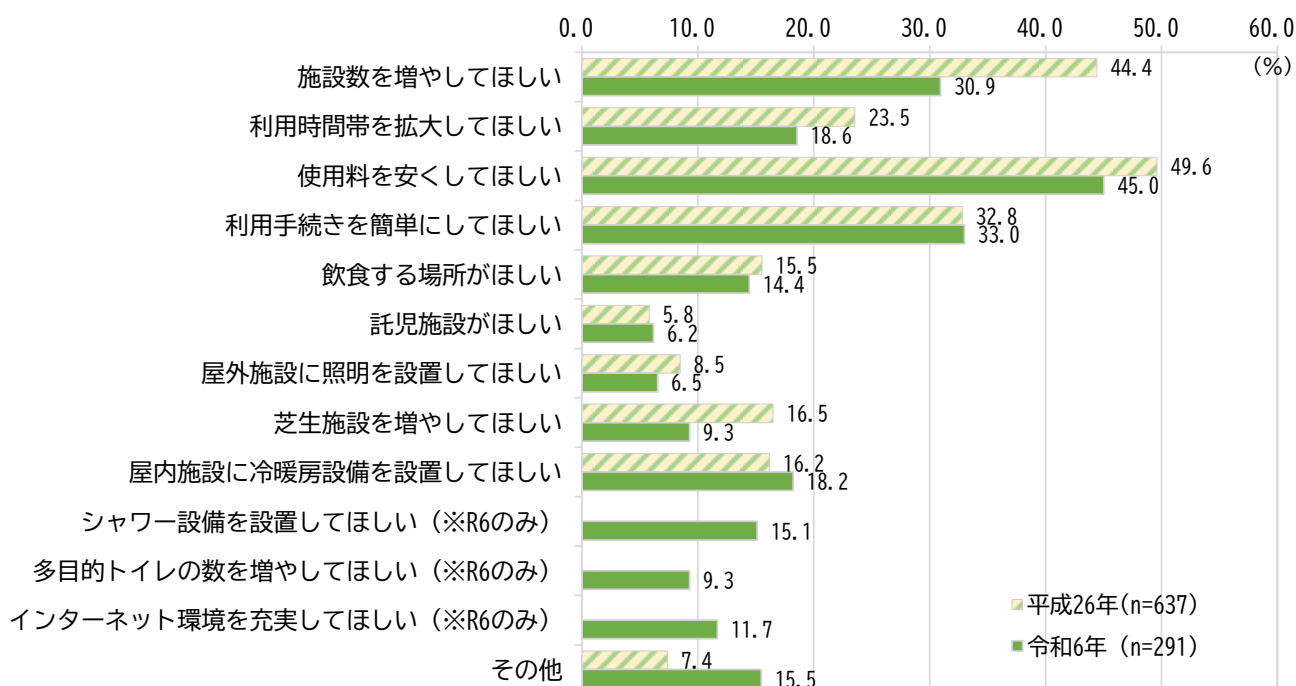
(6) スポーツ施設

- スポーツをした主な場所は、「県・市のスポーツ施設」の割合が 30.2%で最も高く、次いで「公園・広場」が 27.9%、「自宅」が 26.8%である。平成 26 年と比べると、「自宅」は 9.7 ポイント増加している。
- スポーツ施設に関して望むことは、「使用料を安くしてほしい」の割合が 45.0%で最も高く、次いで「利用手続きを簡単にしてほしい」が 33.0%、「施設数を増やしてほしい」が 30.9%である。
- 平成 26 年から 10 ポイント以上増加した項目はない。10 ポイント以上減少したのは、「施設数を増やしてほしい」(13.5 ポイント減少)であり、施設数増加のニーズが下がっている。

図表 42 スポーツをした主な場所〔複数回答〕

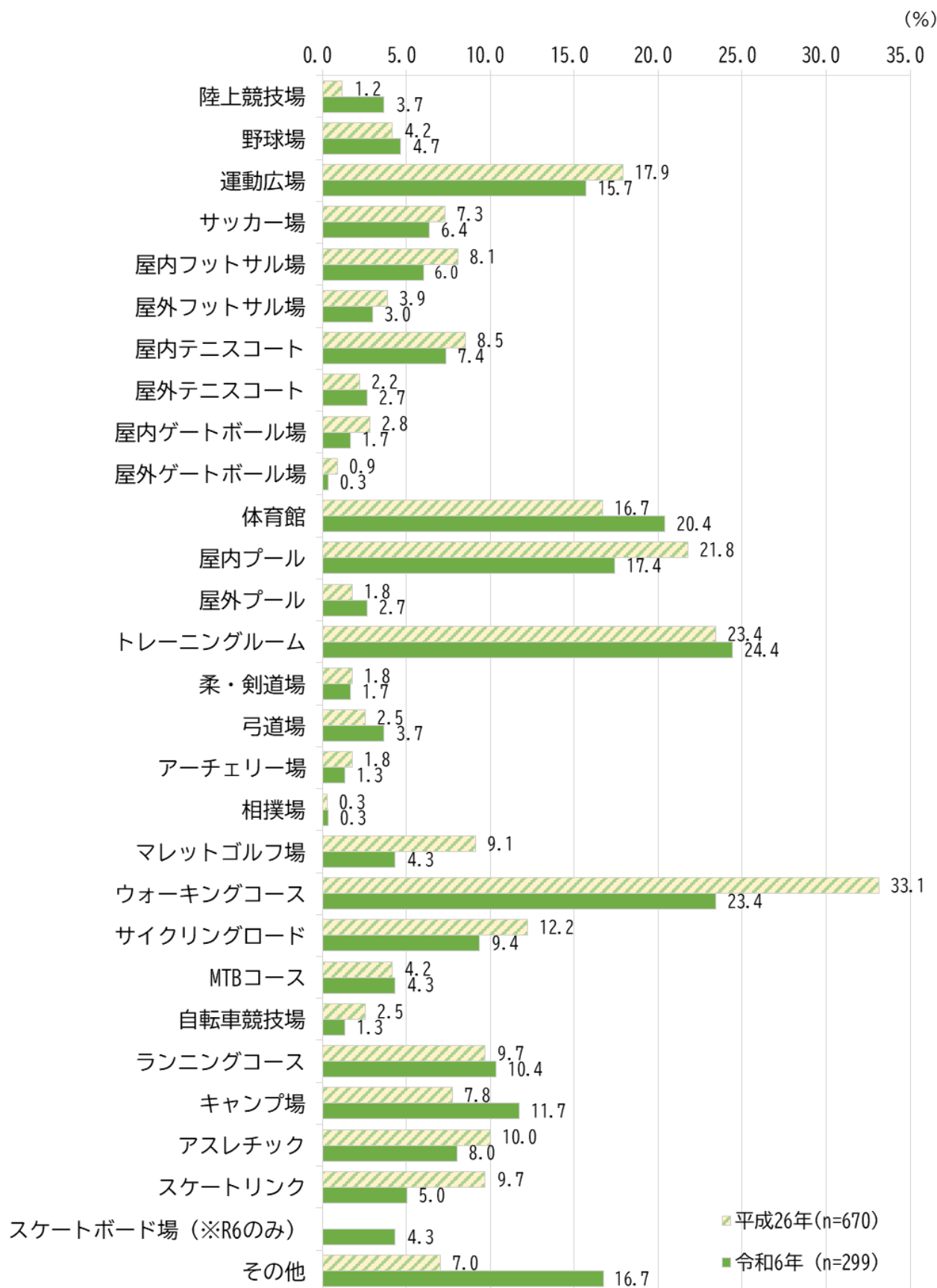


図表 43 スポーツ施設に関して望むこと〔複数回答〕



- 今後、必要だと思うスポーツ施設は、「トレーニングルーム」の割合が24.4%で最も高い。
- 次点は23.4%の「ウォーキングコース」だが、平成26年からは9.7%減少している。

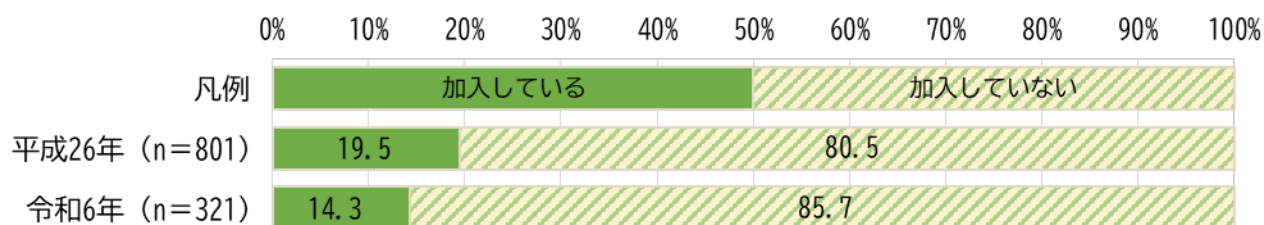
図表 44 今後、必要だと思うスポーツ施設〔複数回答〕



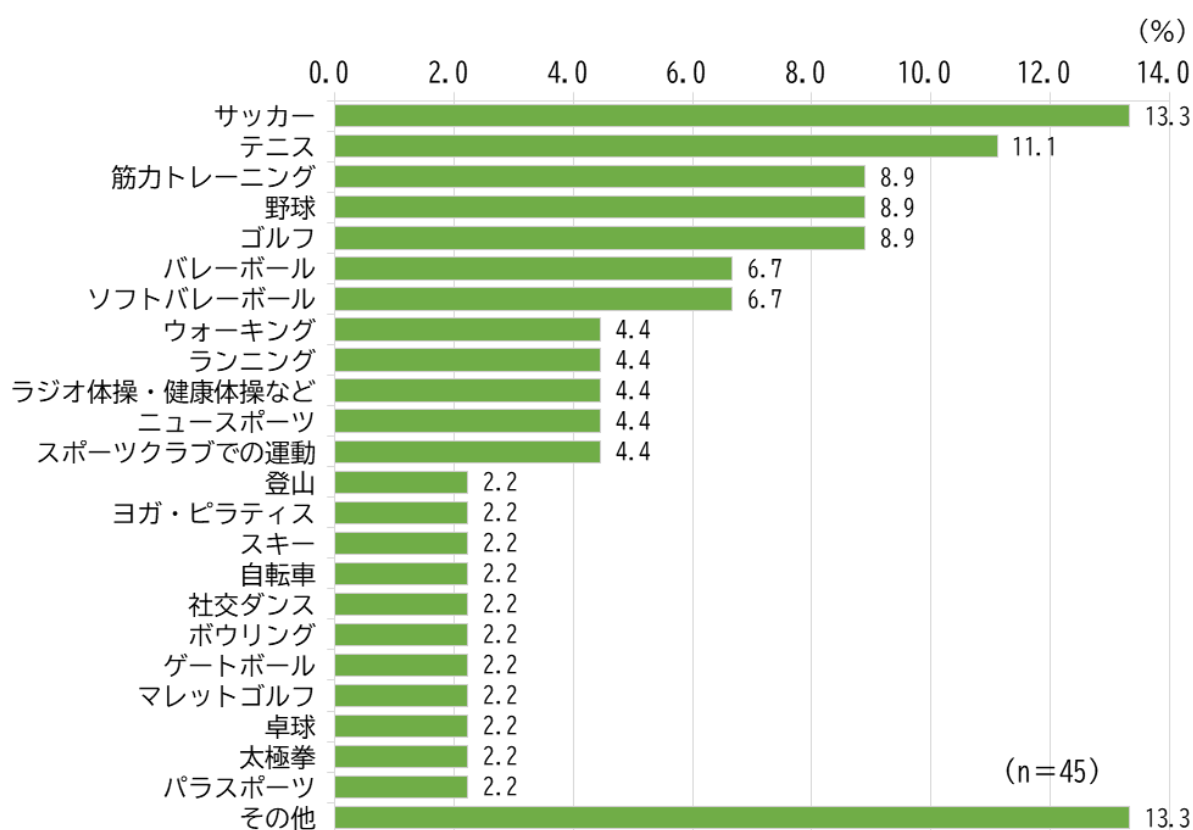
(7) スポーツ団体・グループへの加入状況

- スポーツ団体・グループへ加入している人の割合は 14.3%である。平成 26 年に比べると、加入している人の割合は 5.2 ポイント減少している。
- 加入している団体・グループの競技は、「サッカー」の割合が 13.3%で最も高く、次いで「テニス」が 11.1%である。

図表 45 スポーツ団体・グループへの加入状況

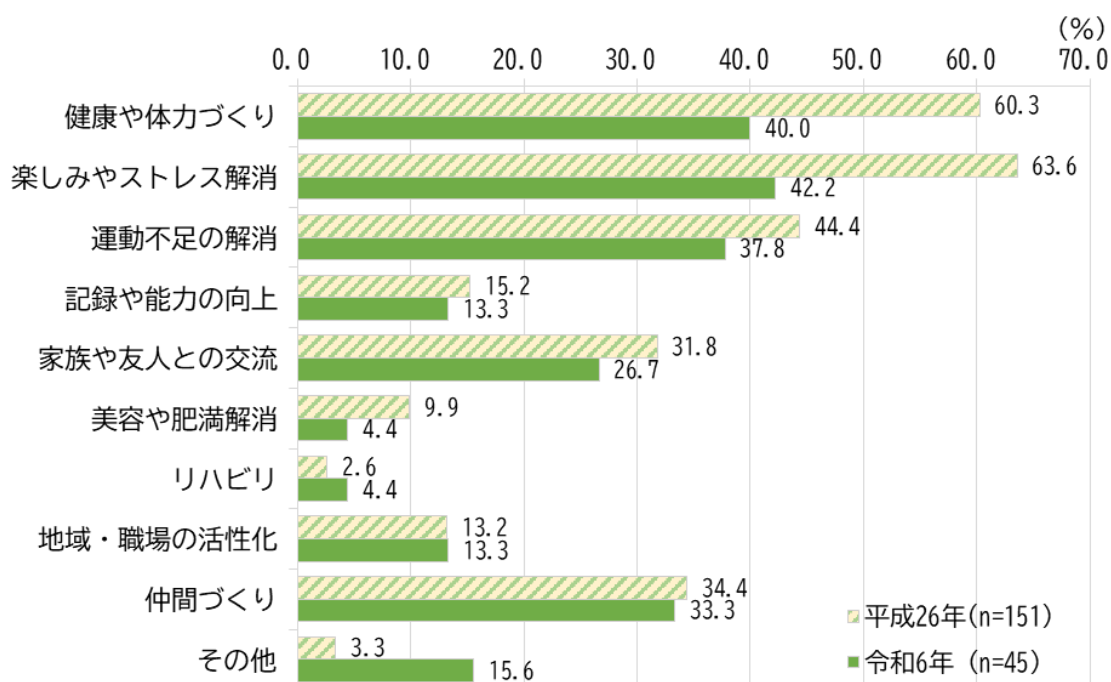


図表 46 回答対象者：加入している人 加入しているスポーツ団体・グループの競技【複数回答】

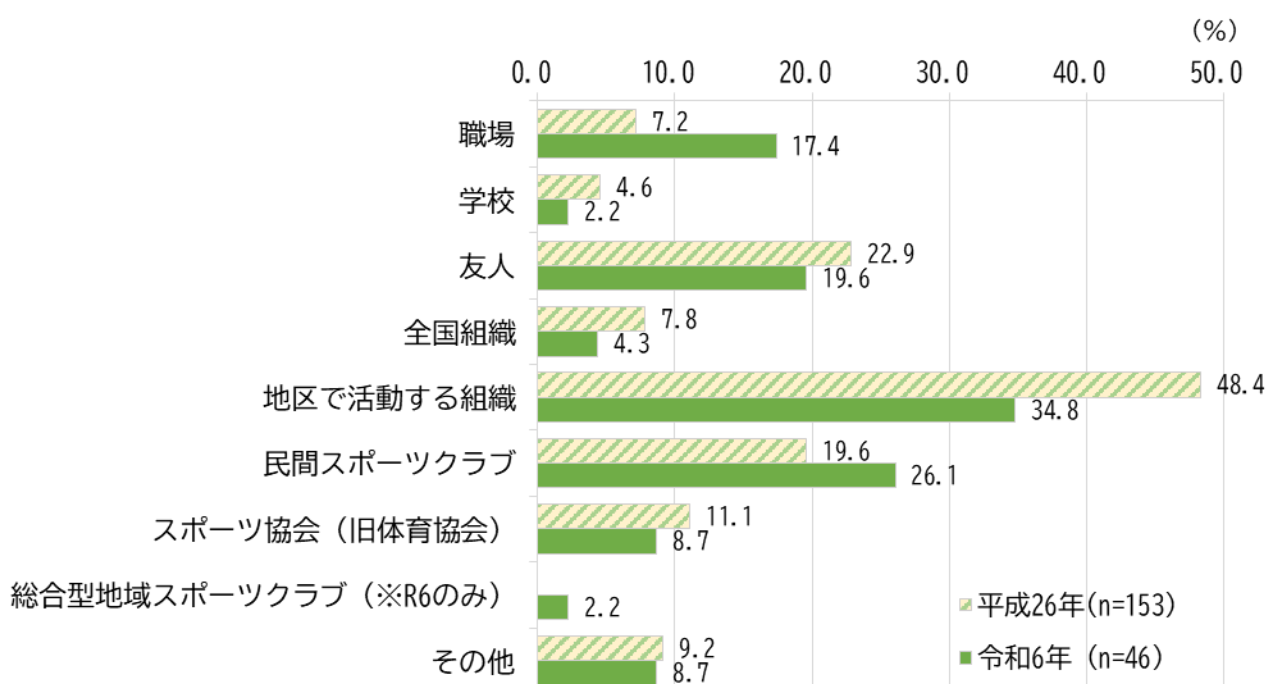


- 団体・グループへの加入のきっかけは、「楽しみやストレス解消」が42.2%、「健康や体力づくり」が40.0%、「運動不足の解消」が37.8%である。「楽しみやストレス解消」「健康や体力づくり」は、平成26年から20ポイント以上減少している。
- 団体・グループの種別は、「地区で活動する組織」の割合が最も高く34.8%で、次いで「民間スポーツクラブ」が26.1%である。「地区で活動する組織」は平成26年から13.6ポイント減少する一方、「民間スポーツクラブ」は6.5ポイント増加しており、その差が縮んでいる。

図表 47 回答対象者：加入している人 加入したきっかけ【複数回答】

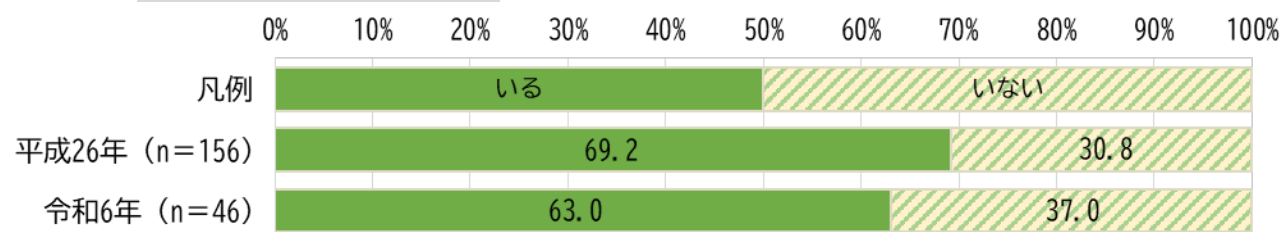


図表 48 回答対象者：加入している人 加入しているスポーツ団体・グループの種別【複数回答】

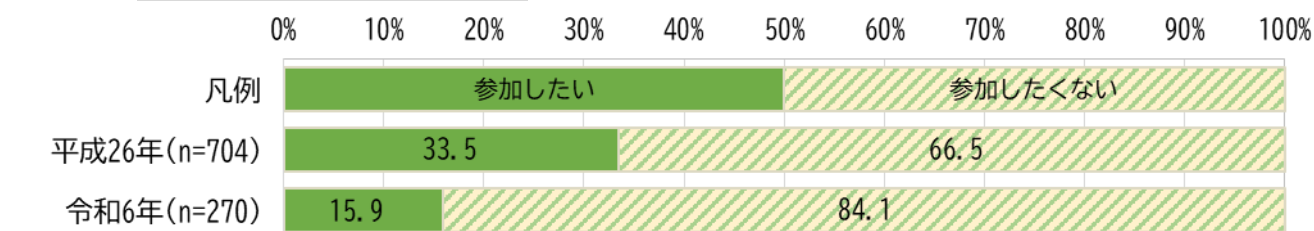


- 団体・グループに指導者が「いる」と答えた人は63.0%で、平成26年から6.2ポイント減少した。
- 団体・グループに加入していない人に、今後加入したいかを聞くと、「参加したい」と答えた人の割合は15.9%で、平成26年から17.6ポイント減少した。
- 加入したいと思うために必要なことは、「時間に余裕がある」の割合が54.8%で最も高く、次いで「身近に活動拠点がある」が50.7%、「一緒に運動する仲間がいる」が47.1%、「金銭的な負担が少ない」が46.3%である。傾向としては平成26年から大きな変化はない。

図表 49 回答対象者：加入している人 加入しているスポーツ団体・グループの指導者の有無

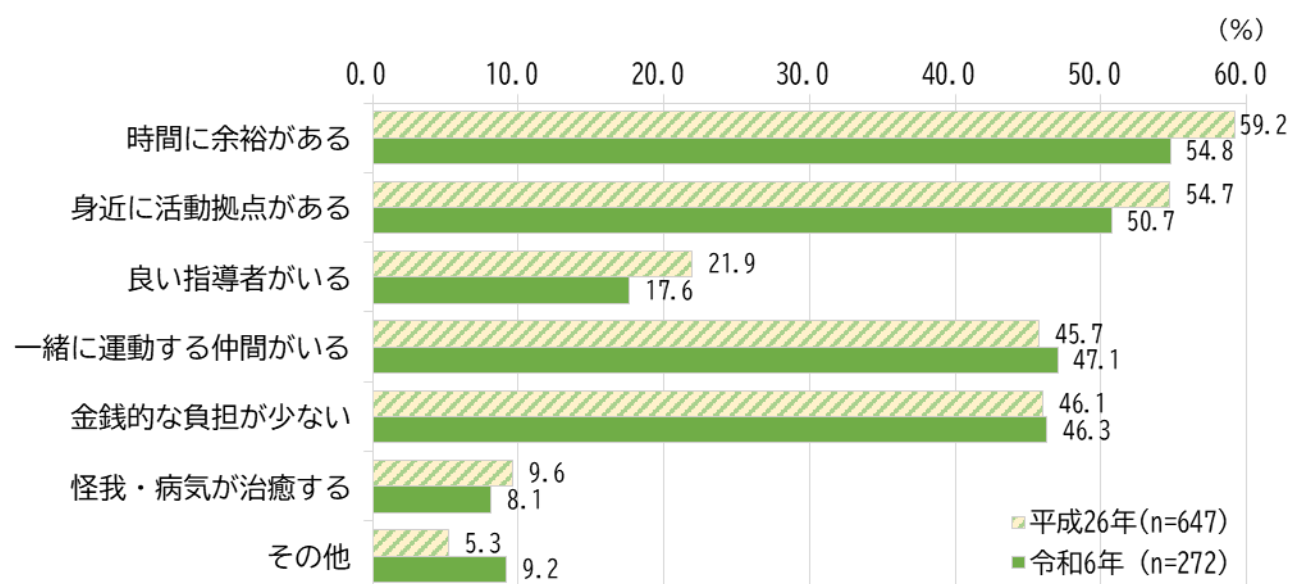


図表 50 回答対象者：加入していない人 今後、スポーツ団体・グループに加入したいか



図表 51 回答対象者：加入していない人

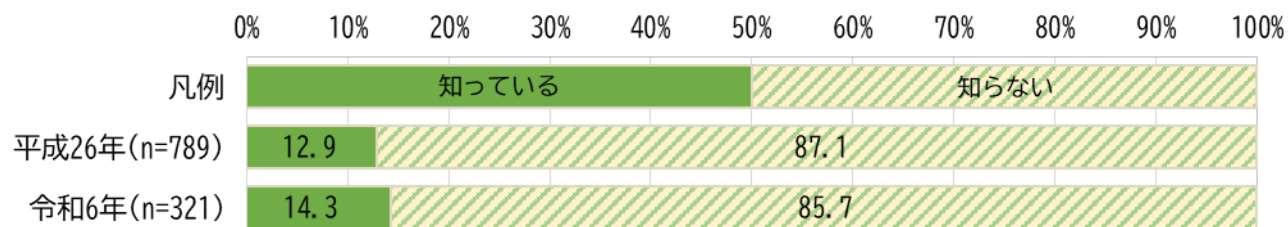
スポーツ団体・グループに加入したいと思うために必要なこと [複数回答]



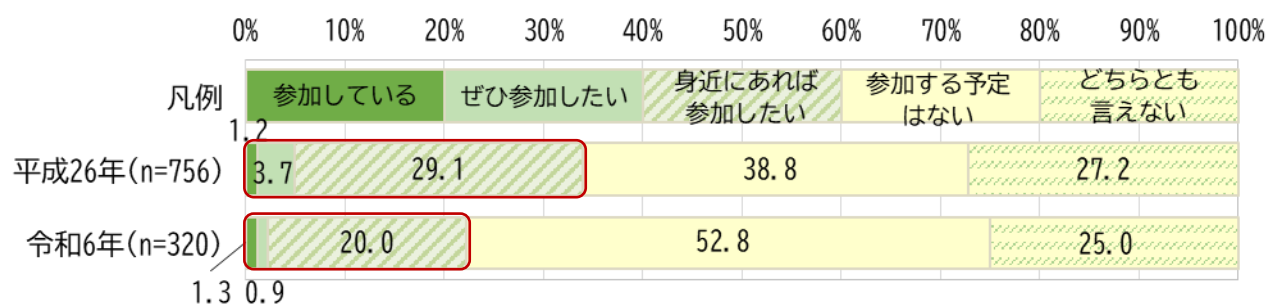
(8) 総合型地域スポーツクラブの認知度

- 総合型地域スポーツクラブを知っている人の割合は 14.3%で、平成 26 年から横ばいである。
- 参加意向は、「参加している」と「ぜひ参加したい」「身近にあれば参加したい」を合わせて 22.2%で、平成 26 年の 34.0%から 11.8 ポイント低下している。「参加する予定はない」は 52.8%で、平成 26 年の 38.8%から 14 ポイント増加している。

図表 52 総合型地域スポーツクラブを知っているか



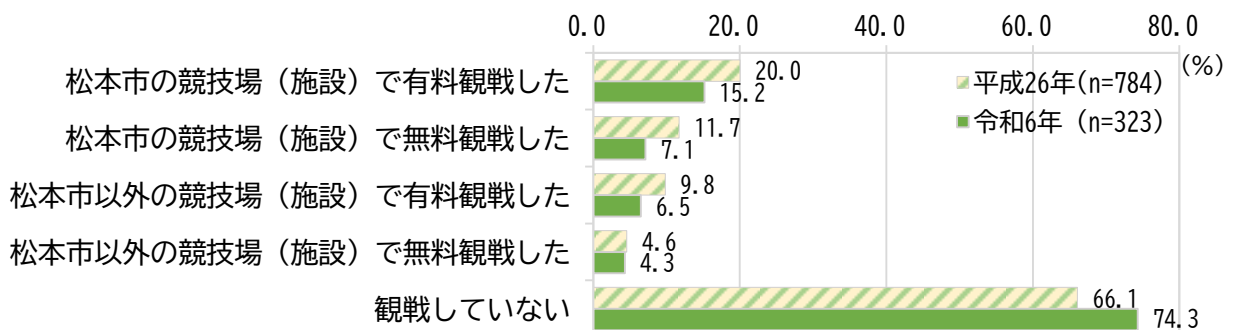
図表 53 総合型地域スポーツクラブへの参加意向



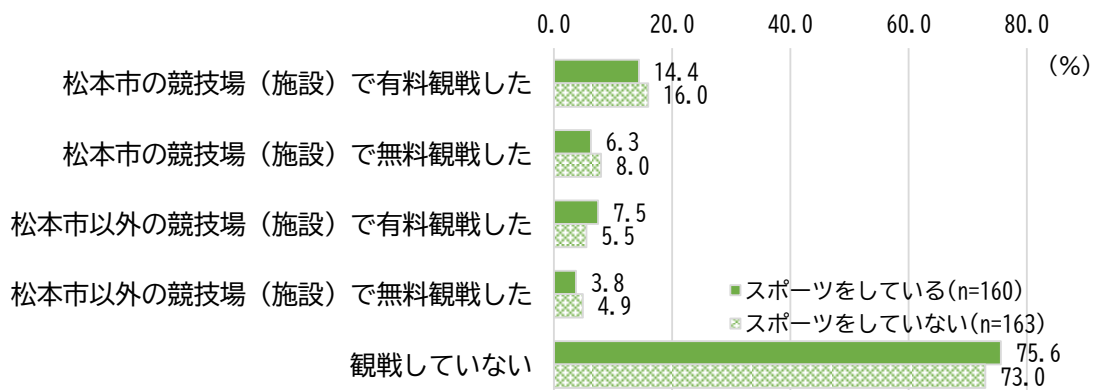
3. スポーツを「みる」人の状況

- 令和5年度に市内競技場（施設）でスポーツ観戦した人は、有料が15.2%、無料が7.1%である。平成26年と比較して、「競技場（施設）で観戦していない」の割合は66.1%から74.3%となっており、スポーツ観戦率は低下傾向にある。
- スポーツの実施状況別にみると傾向に大きな違いはなかった。
- 観戦した人にその内容を聞くと、「サッカー」が52.4%、「野球」が31.7%など、球技の割合が高くなっている。

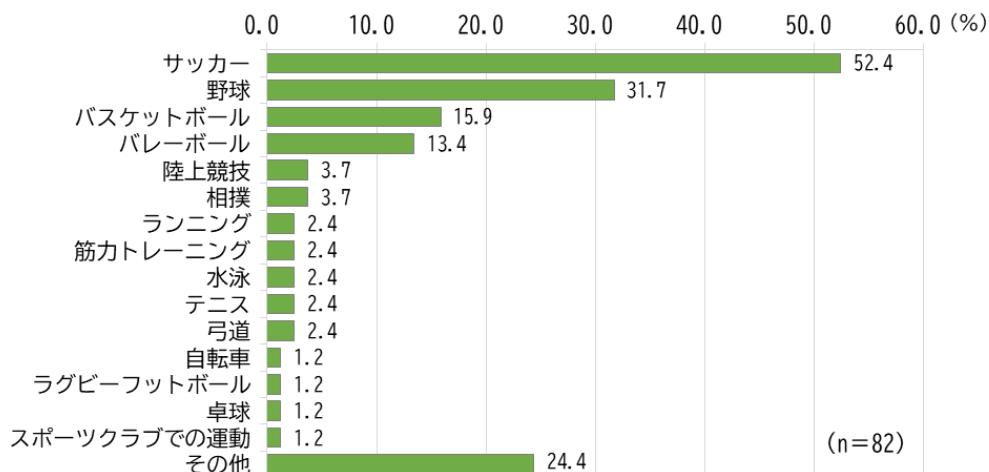
図表 54 前年1年間に競技場（施設）で観戦したか〔複数回答〕



図表 55 〈スポーツの実施状況別〉前年1年間に競技場（施設）で観戦したか〔複数回答〕

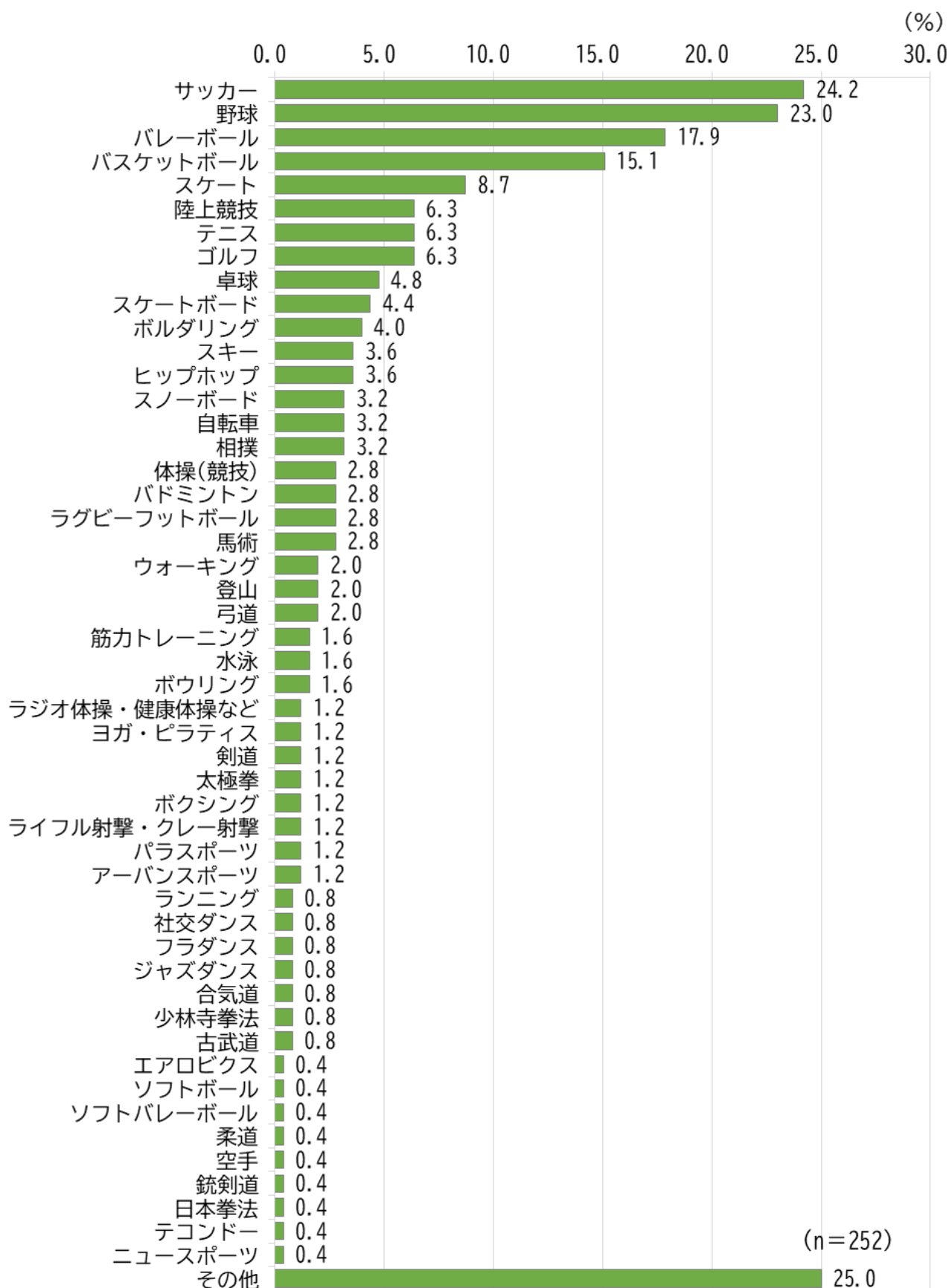


図表 56 回答対象者：令和5年度に競技場（施設）で観戦した人 観戦したスポーツ〔複数回答〕



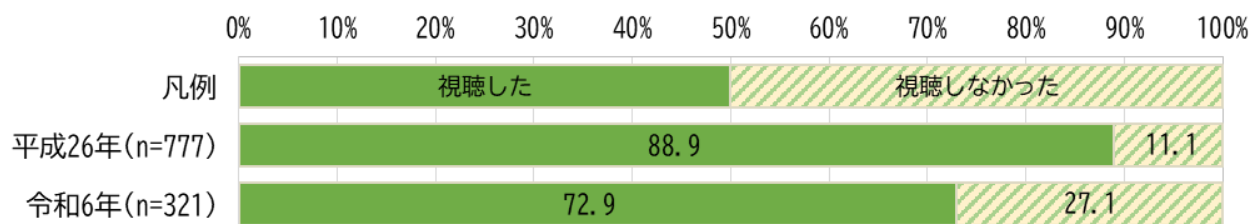
- 観戦したいスポーツは「サッカー」の割合が24.2%で最も高く、次いで「野球」が23.0%、「バレーボール」が17.9%、「バスケットボール」が15.1%と、球技が上位となっている。

図表 57 観戦したいスポーツ [複数回答]

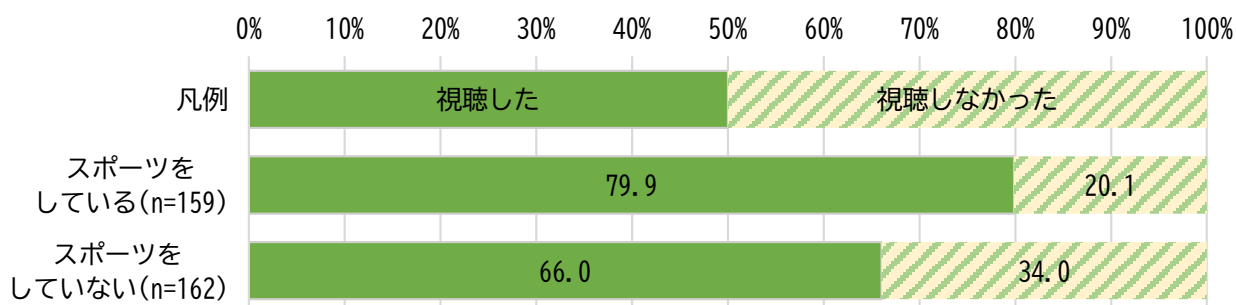


- 令和5年度にテレビ・インターネット・ラジオなどでスポーツを視聴した人は72.9%で、平成26年から16ポイント減少している。
- スポーツの実施状況別にみると、スポーツをしている人の方がテレビ・インターネット・ラジオなどでスポーツを視聴している傾向にある。
- 年代別では、視聴した人の割合が高いのは50代（81.4%）であり、低いのは40代（62.8%）、次いで30代（65.2%）である。

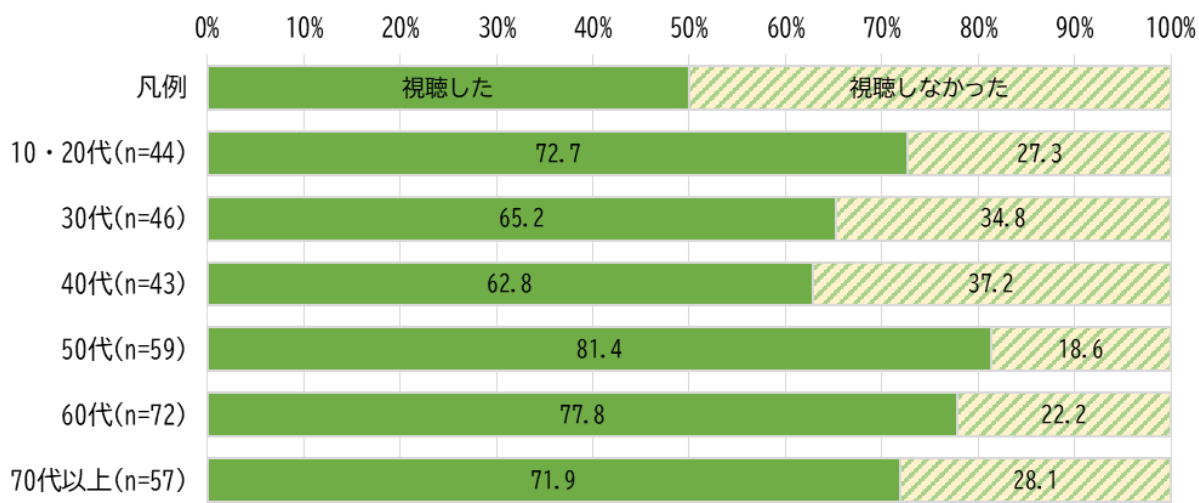
図表 58 前年1年間に、テレビ・インターネット・ラジオなどでスポーツを視聴したか



図表 59 〈スポーツの実施状況別〉令和5年度の1年間に、テレビ・インターネット・ラジオなどでスポーツを視聴したか

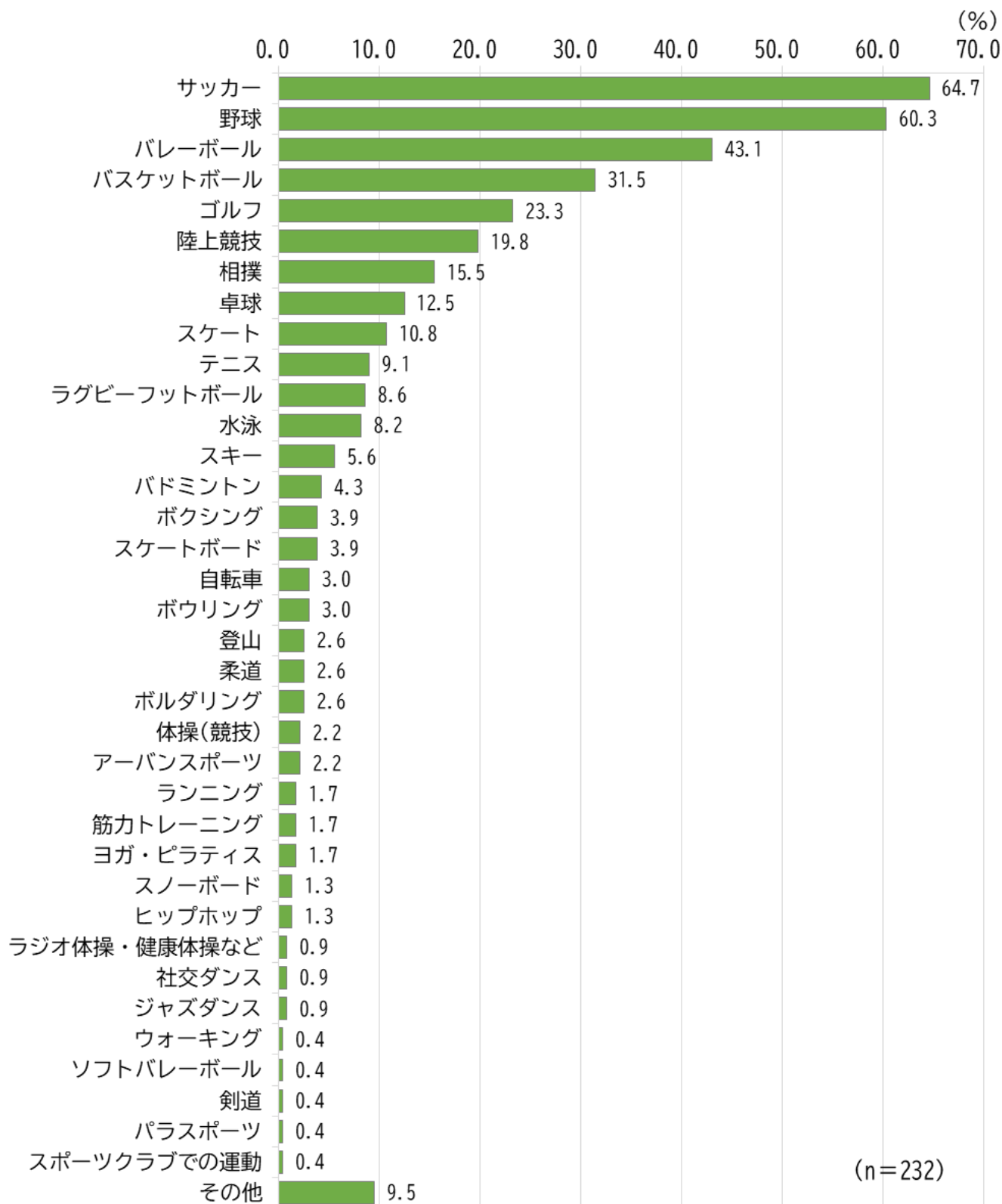


図表 60 〈年代別〉令和5年度の1年間に、テレビ・インターネット・ラジオなどでスポーツを視聴したか



- ・視聴したスポーツは、「サッカー」の割合が 64.7%で最も高く、次いで「野球」が 60.3%、「バレーボール」が 43.1%である。

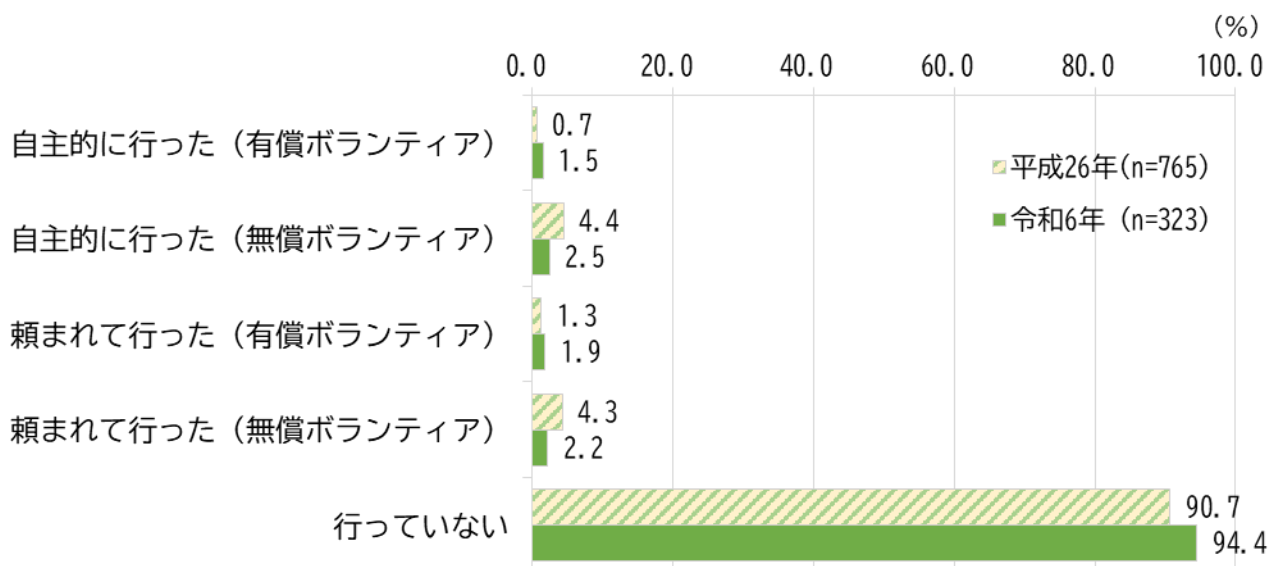
図表 61 回答対象者：令和5年度に、テレビ・インターネット・ラジオなどでスポーツを視聴した人
視聴したスポーツ〔複数回答〕



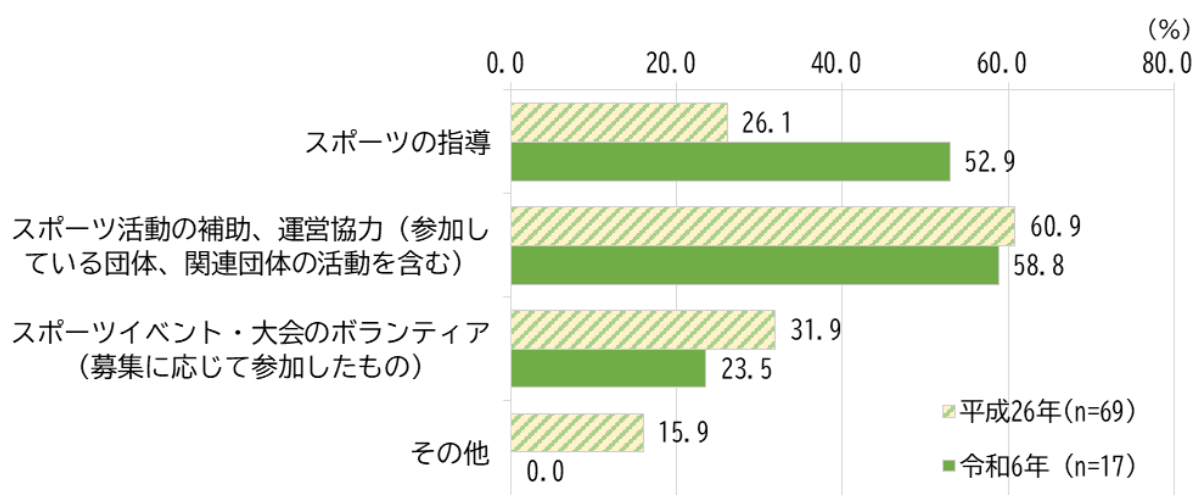
4. スポーツを「ささえる」人の状況

- 令和5年度にスポーツ関係のボランティア活動を行った人は有償・無償、自主的・頼まれてのいずれの場合も3%未満で、行っていない人が94.4%と大半である。
- ボランティア活動を行った人にその内容を聞くと、「スポーツ活動の補助、運営協力」の割合が58.8%で最も高く、次いで「スポーツの指導」が52.9%であった。

図表 62 前年1年間に、スポーツの指導、イベント協力などでボランティア活動を行ったか〔複数回答〕

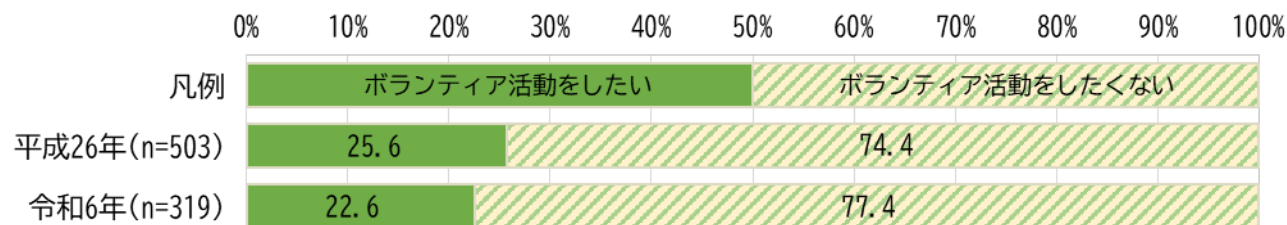


図表 63 回答対象者：前年1年間にスポーツ関係のボランティア活動を行った人
ボランティア活動の内容〔複数回答〕

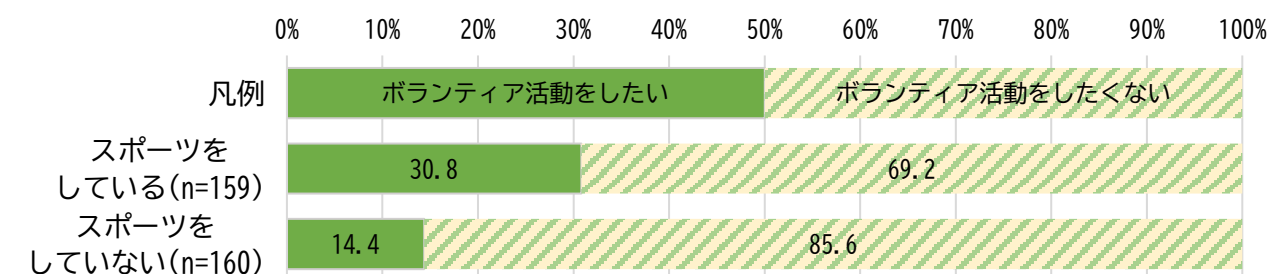


- ボランティア活動をしたい人は22.6%で、平成26年からは3.0ポイントとやや減少している。
- スポーツの実施状況別にみると、スポーツをしている人で、ボランティア活動の参加意向が高い。
- 年代別にみると、10・20代では3割以上の方がボランティア活動をしたいと答えている。割合が最も低いのは40代（16.3%）である。
- スポーツ指導の資格を持っている人は6.5%で、平成26年から4.0ポイントとやや増加している。

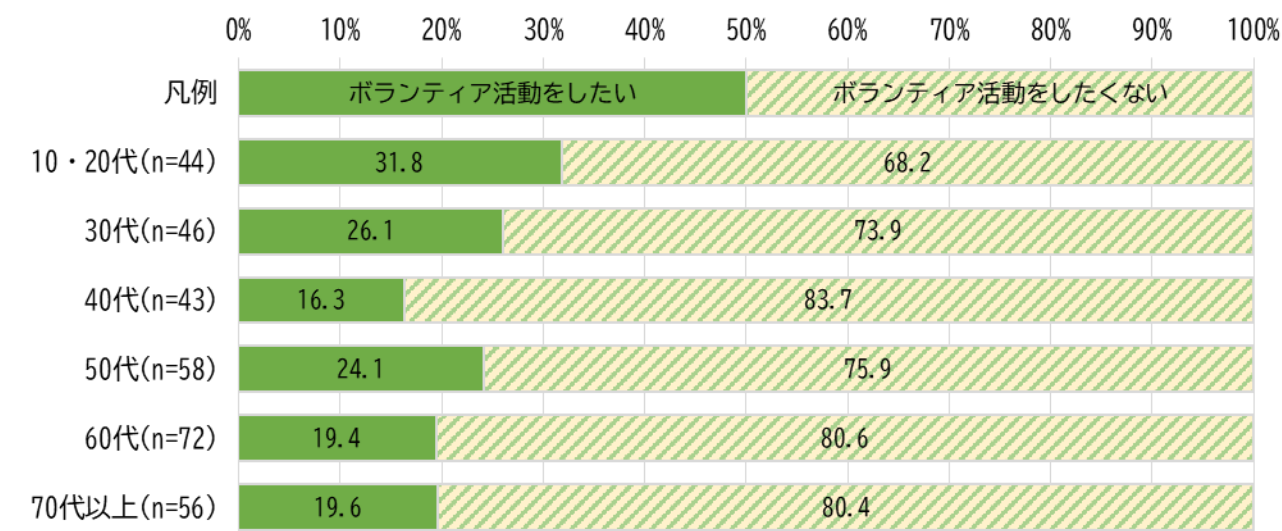
図表 64 スポーツ関係のボランティア活動をしたいか



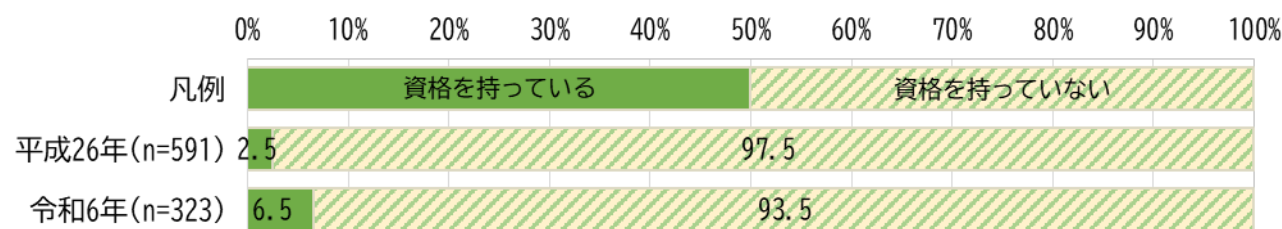
図表 65 スポーツ関係のボランティア活動をしたいか



図表 66 〈年代別〉スポーツ関係のボランティア活動をしたいか



図表 67 スポーツ指導の資格の有無

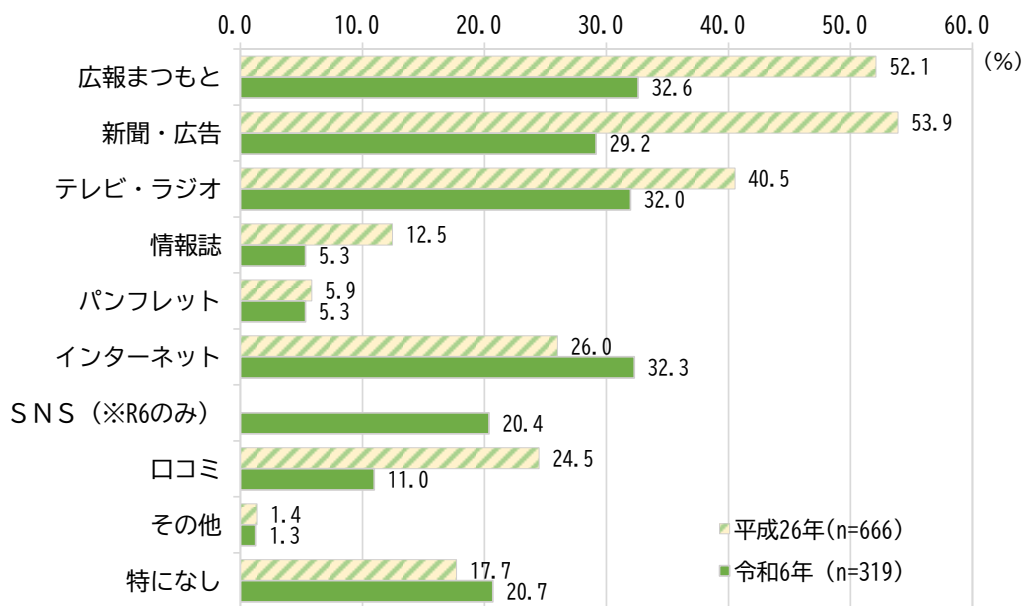


5. スポーツに関する情報入手方法・知りたい情報

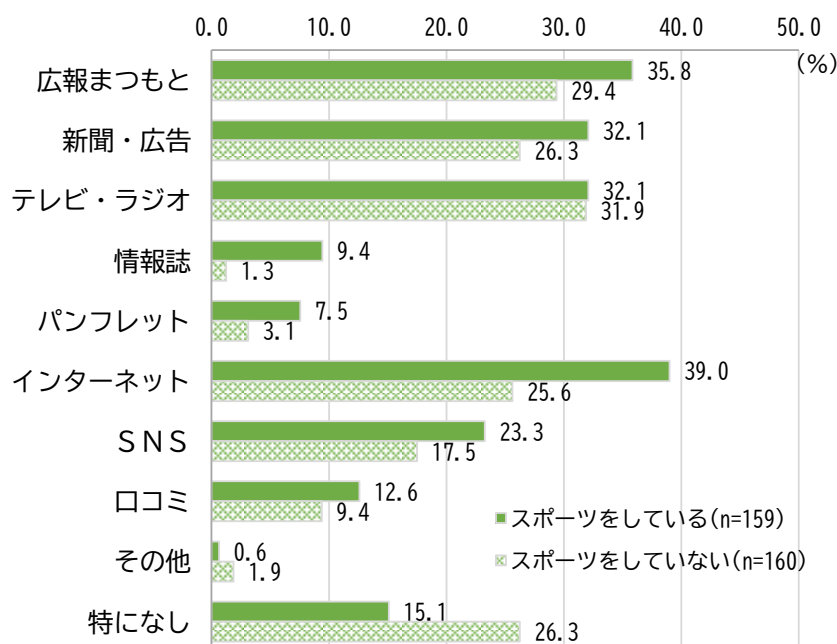
(1) 情報の入手方法

- スポーツ全般に関する情報の入手方法は、「広報まつもと」が32.6%、「インターネット」が32.3%、「テレビ・ラジオ」が32.0%、「新聞・広告」が29.2%で、それぞれ3割程度である。
- 平成26年に比べて「インターネット」が6.3ポイント増加している。10ポイント以上減少しているのは「広報まつもと」「新聞・広告」「口コミ」である。
- スポーツの実施状況別にみると、スポーツをしている人は「インターネット」で情報を入手している。

図表 68 スポーツ全般に関する情報の入手方法〔複数回答〕



図表 69 〈スポーツの実施状況別〉スポーツ全般に関する情報の入手方法〔複数回答〕



- 年代別に情報の入手方法をみると、10～30代では「SNS」の割合が48.9%で最も高く、次いで「インターネット」が45.6%となっている。
- 40・50代では「インターネット」の割合が37.6%で最も高く、次いで「テレビ・ラジオ」が33.7%である。60代以上では「新聞・広告」の割合が46.1%で最も高く、次いで「広報まつもと」が40.6%である。

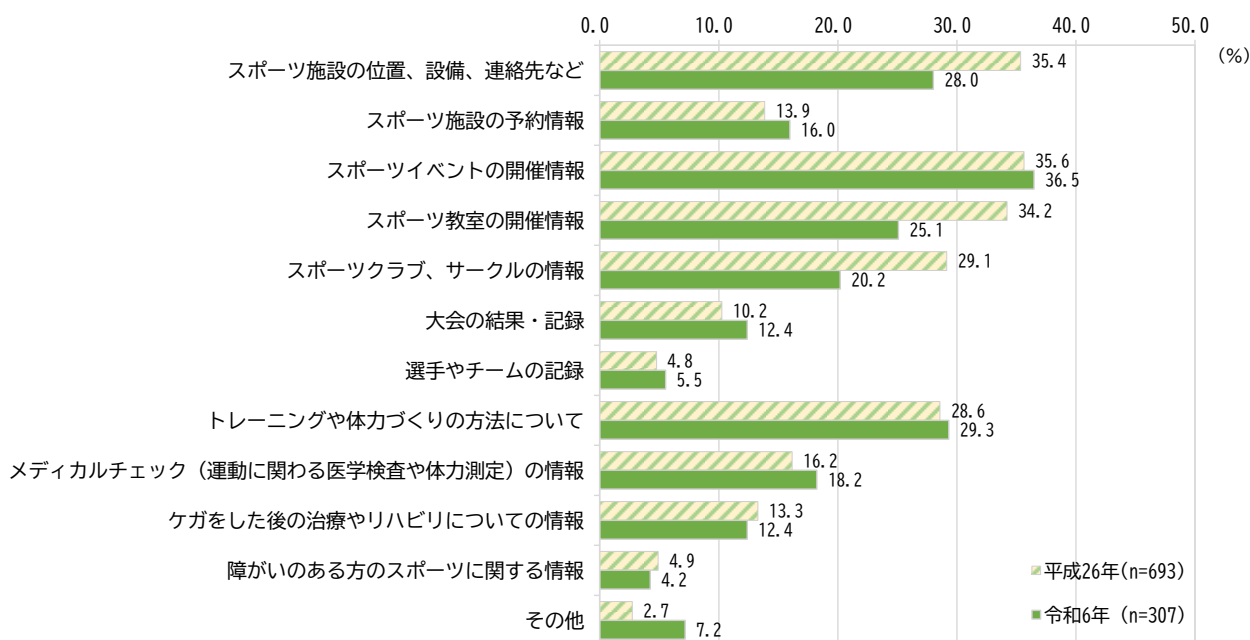
図表 70 〈年代別〉スポーツ全般に関する情報の入手方法〔複数回答〕

	10～30代(n=90) (%)	40・50代(n=101) (%)	60代以上(n=128) (%)
広報まつもと	24.4	29.7	40.6
新聞・広告	14.4	20.8	46.1
テレビ・ラジオ	30.0	33.7	32.0
情報誌	6.7	5.9	3.9
パンフレット	3.3	5.0	7.0
インターネット	45.6	37.6	18.8
SNS	48.9	14.9	4.7
口コミ	13.3	10.9	9.4
その他	1.1	1.0	1.6
特になし	16.7	24.8	20.3

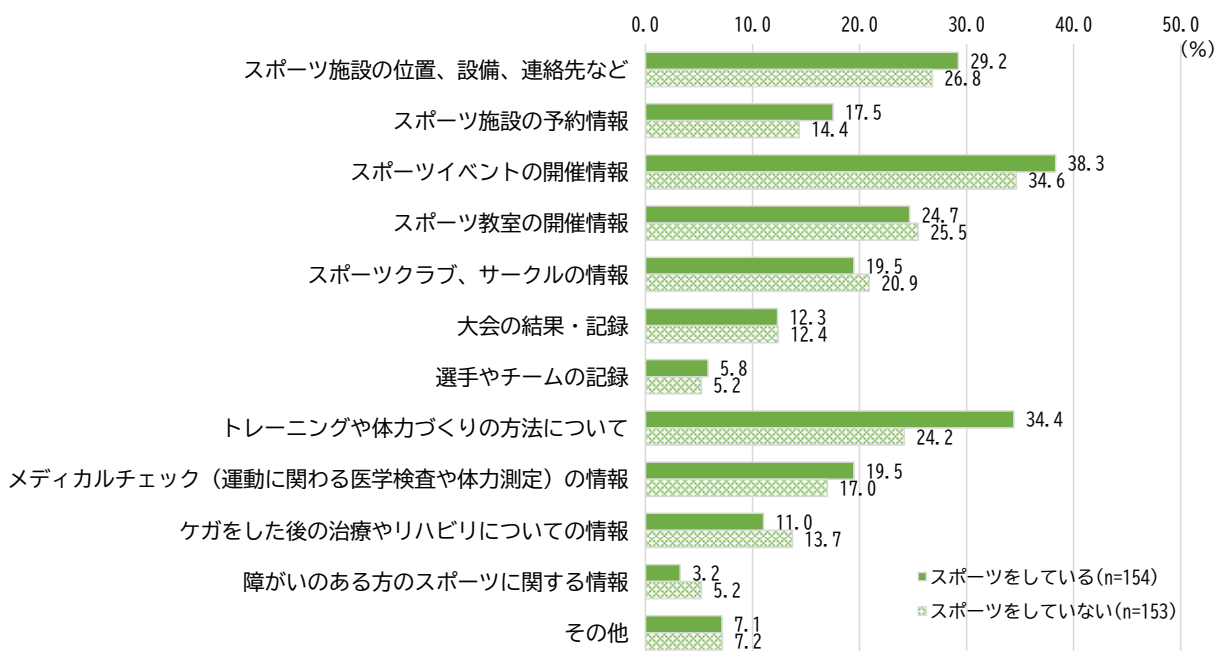
(2) 知りたい情報

- 知りたいスポーツ情報は、「スポーツイベントの開催情報」の割合が 36.5%で最も高く、次いで「トレーニングや体力づくりの方法について」が 29.3%、「スポーツ施設の位置、設備、連絡先など」が 28.0%である。
- スポーツの実施状況別にみると、スポーツをしている人は、していない人に比べて「トレーニングや体力づくりの方法」が 10.2 ポイント高くなっている。

図表 71 どのようなスポーツ情報を知りたいか〔複数回答〕



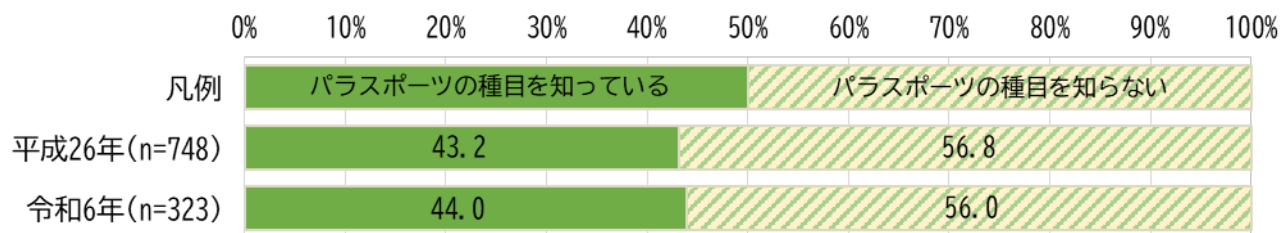
図表 72 〈スポーツの実施状況別〉どのようなスポーツ情報を知りたいか〔複数回答〕



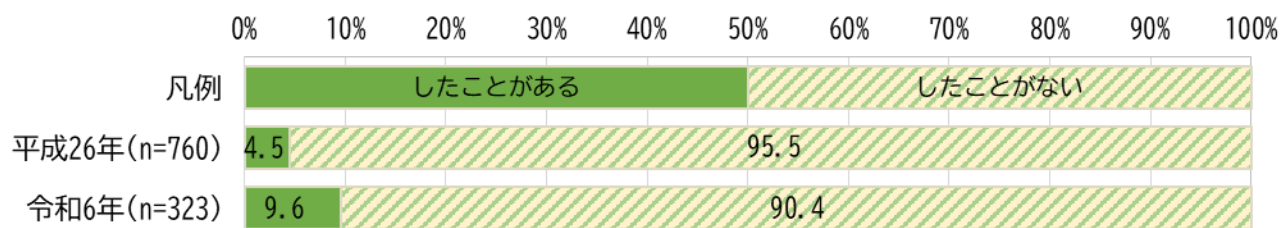
6. パラスポーツの状況

- パラスポーツの種目を知っている人の割合は44.0%で、平成26年から横ばいで推移している。
- 障がい者と一緒にスポーツをしたことがある人の割合は9.6%、パラ障がい者スポーツのボランティアをしたことがある人の割合は3.4%で、平成26年に比べると、それぞれやや上昇している。
- 障がい者と一緒にスポーツをした経験のある人は、その経験のない人に比べて、パラスポーツのボランティア経験が28.3ポイント高くなっている。

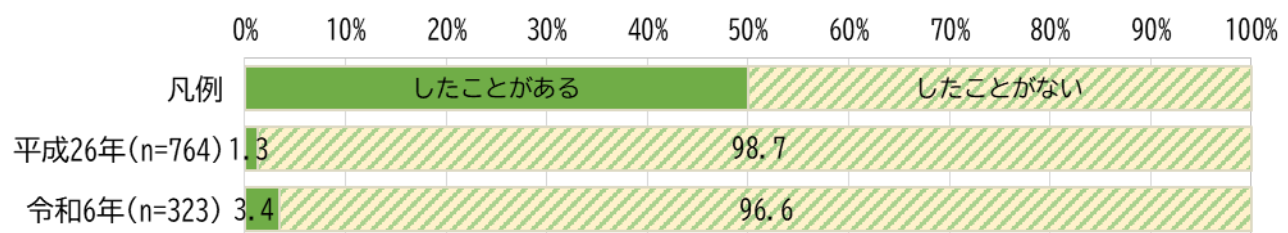
図表 73 パラスポーツの種目を知っているか



図表 74 障がい者と一緒にスポーツをしたことがあるか

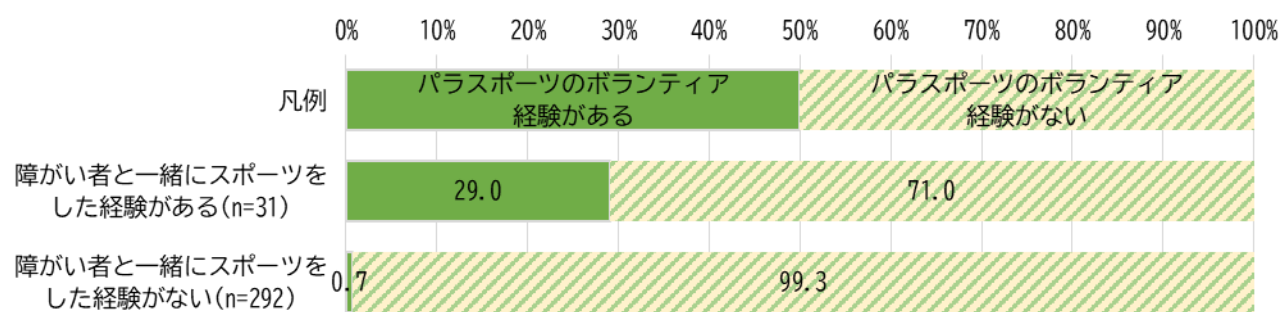


図表 75 パラスポーツのボランティアをしたことがあるか



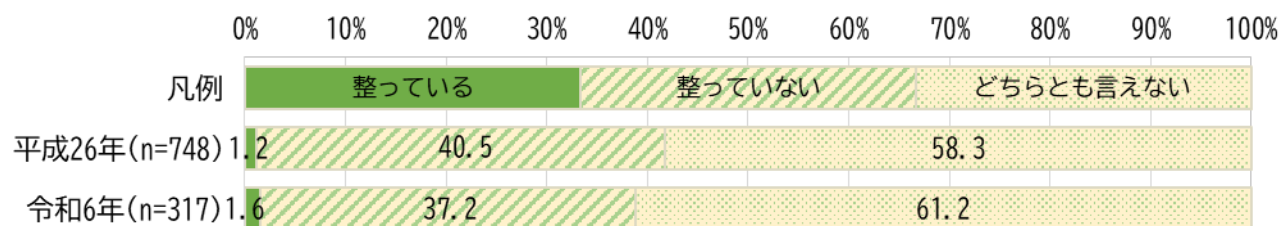
図表 76 〈障がい者と一緒にスポーツをした経験別〉

パラスポーツのボランティアをしたことがあるか

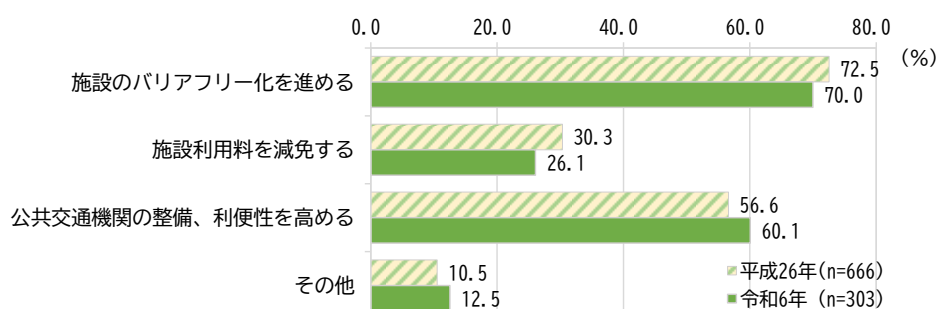


- 年齢や状態を問わず、介助が必要な人もスポーツができる場所や仕組みが整っていると思う人は1.6%、整っていないと思う人は37.2%である。
- 障がい者と一緒に楽しめるスポーツ環境が整うために必要なことは、「施設のバリアフリー化を進める」が70.0%で最も高く、次いで「公共交通機関の整備、利便性を高める」が60.1%である。
- 障がい者と一緒に楽しむために、どのようなスポーツがあればよいかについては、具体的な既存スポーツを挙げる意見のほか、ルールがわかりやすいなど参加しやすいものや安全性が高いものが良いという意見などが見られた。

図表 77 年齢、状態を問わず、介助が必要な人もスポーツができる場所や仕組みが整っていると思うか



図表 78 どうすれば障がい者と一緒に楽しめるスポーツ環境が整うか〔複数回答〕



図表 79 障がい者と一緒に楽しむためには、どのようなスポーツがあればよいか〔自由記述〕

	人数	割合 (%)
具体的な既存スポーツを挙げる意見	25	29.4
ルールがわかりやすいなど参加しやすいもの、または安全性が高いものという意見	13	15.3
既存のスポーツのルールを変えたり、パラスポーツを基本にしたりなど、障がいの有無にかかわらず参加できるものという意見	7	8.2
障がいの有無にかかわらず、参加者同士が交流しながら一緒に楽しめるものという意見	5	5.9
既存のパラスポーツを、普及、活性化すべきという意見	4	4.7
障がいの特性により異なるので、一概に言えないという意見	7	8.2
その他	13	15.3
わからない	16	18.8
回答者数	85	

図表 80 障がい者と一緒に楽しめるものとして挙げられた既存スポーツの具体名〔自由記述〕

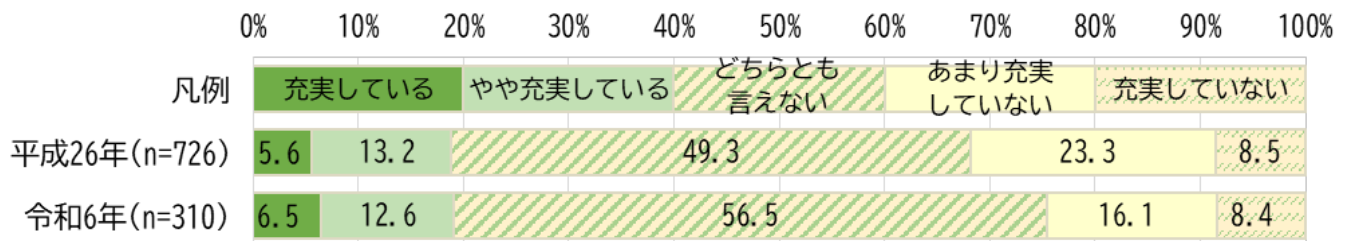
分野	具体名
球技	バスケットボール、テニス、サッカー、ゴルフ、卓球、バドミントン
パラスポーツ	ボッチャ、ブラインドサッカー、フロアバレーボール、サウンドテーブルテニス、ゴールボール、グランドソフトボール
ニュースポーツ	ペタンク、モルック
水泳	水泳
陸上競技	マラソン
ウォーキング	ウォーキング
その他	アーチェリー・弓術、ボウリング、柔道、登山、ダンス、輪投げ

7. 子どもとスポーツ・中学校部活動の地域移行

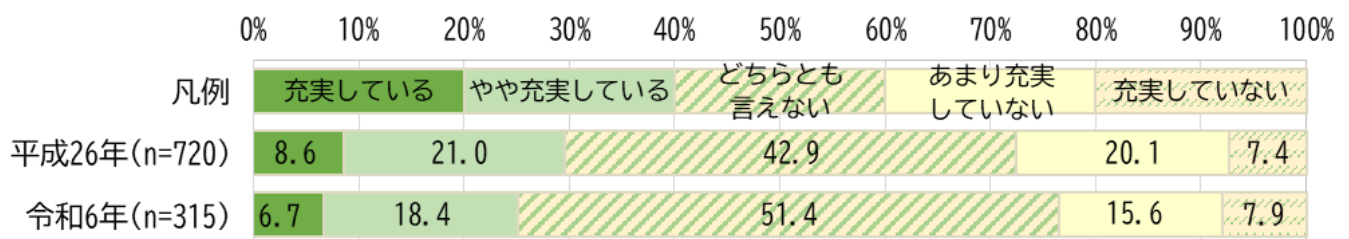
(1) 子どもの運動する機会の充実について

- 子どもの運動する機会が「充実している」「やや充実している」を合わせた割合は、幼児世代では19.1%、小・中学生世代では25.1%、高校生世代では25.5%である。
- 子ども（幼児世代から高校生世代）の運動する機会を充実させるために必要なこととしては、「身近に運動できる場所を増やすこと」の割合が72.1%で最も高い。平成26年と比べて最も増加しているのは「スポーツクラブを充実させること」（8.0ポイント増加）である。

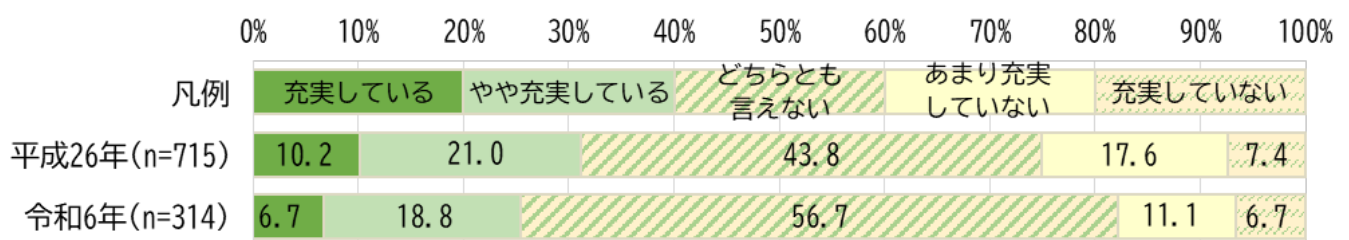
図表 81 子ども（幼児世代）の運動する機会の充実度



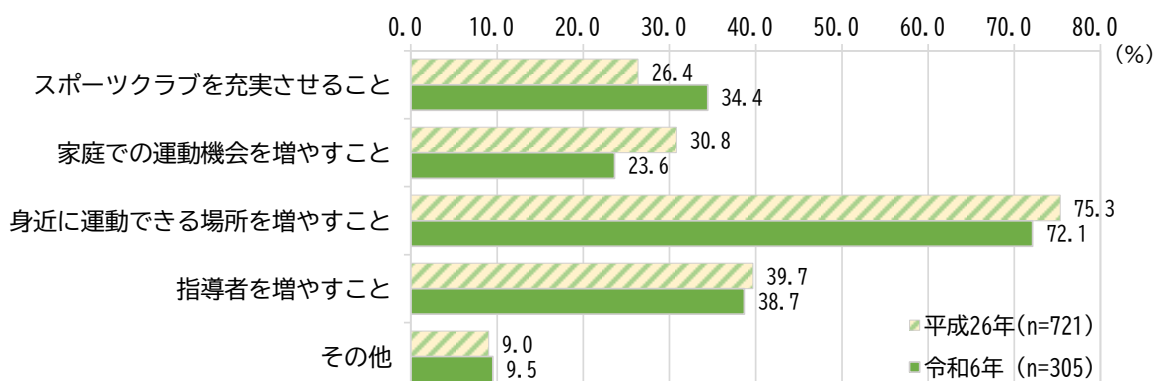
図表 82 子ども（小・中学生世代）の運動する機会の充実度



図表 83 子ども（高校生世代）の運動する機会の充実度



図表 84 子ども（幼児世代から高校生世代）の運動する機会を充実させるために必要なこと
[複数回答]

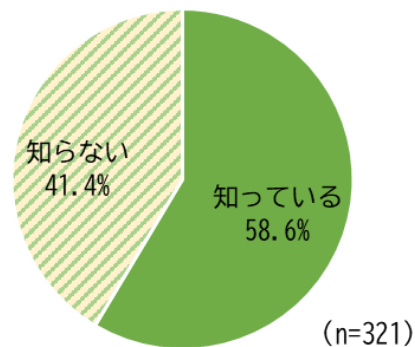


(2) 中学校部活動の地域移行について

- ・ 中学校部活動の地域移行が実施されようとしていることを「知っている」と答えた人は 58.6%である。
- ・ 地域移行の理由を「知っている」と答えた人は 30.8%で、「知らない」を 38.4 ポイント下回った。
- ・ 松本市における地域移行の時期を「知っている」と答えた人は 25.9%で、「知らない」を 48.2 ポイント下回った。

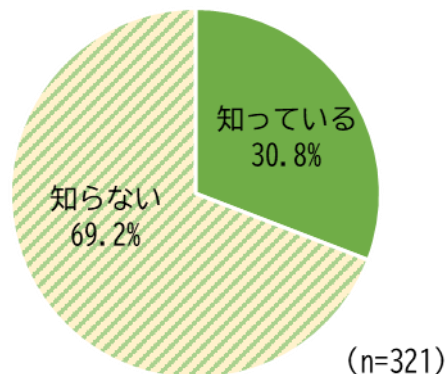
図表 85 中学校部活動の地域移行が実施されようとしていることを知っているか

	人数 (人)	割合 (%)
知っている	188	58.6
知らない	133	41.4
合計	321	100.0



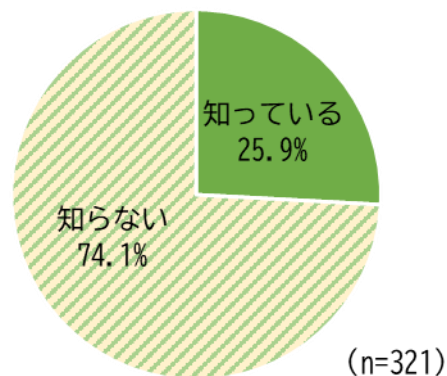
図表 86 中学校部活動の地域移行が、「少子化が進む中、将来にわたり生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保するため」という理由で行われることを知っているか

	人数 (人)	割合 (%)
知っている	99	30.8
知らない	222	69.2
合計	321	100.0



図表 87 松本市が、令和7年度までに休日部活動を、令和8年度には平日部活動も地域移行することを目指して取組みを進めていることを知っているか

	人数 (人)	割合 (%)
知っている	83	25.9
知らない	238	74.1
合計	321	100.0

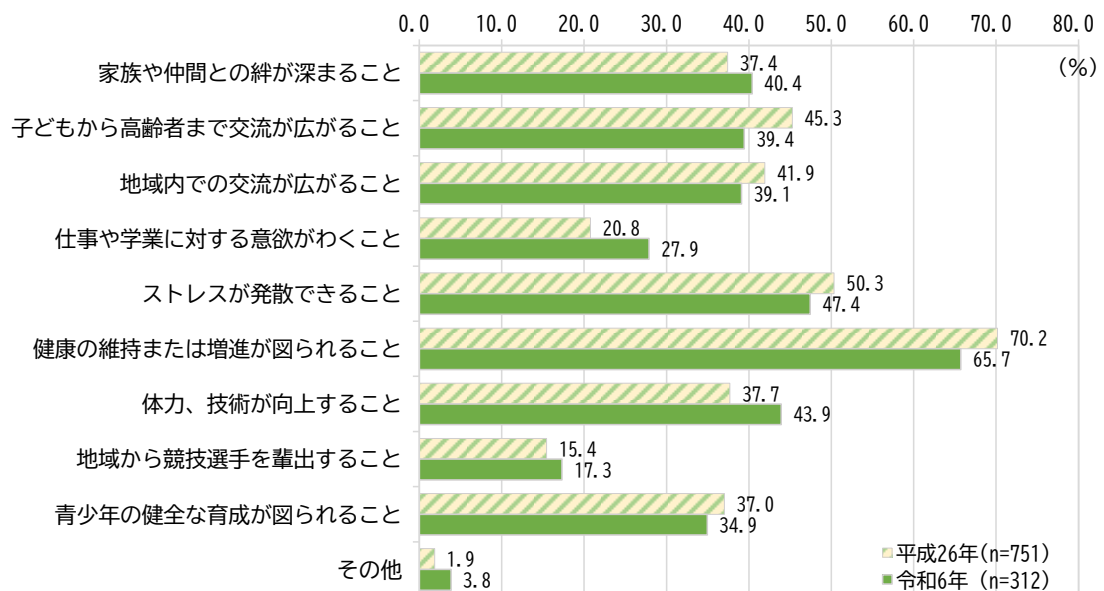


8. スポーツ推進に向けた松本市への期待・力を入れてほしいこと・満足度

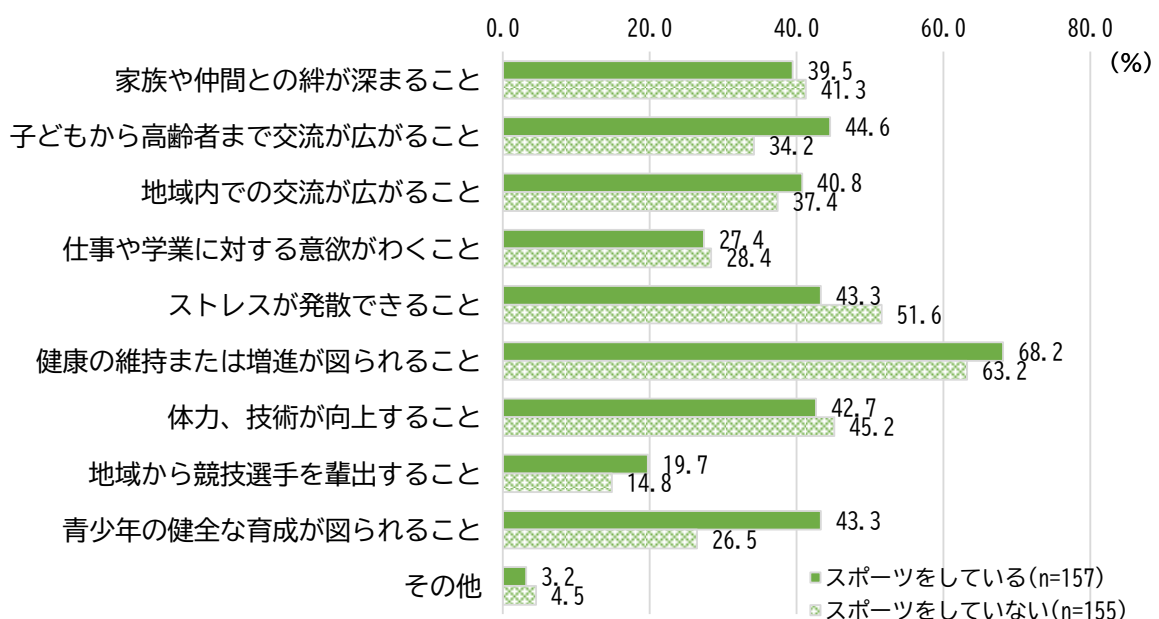
(1) スポーツ推進に向けた松本市への期待

- 松本市がスポーツを推進するにあたって期待することとしては、「健康の維持または増進が図られること」の割合が 65.7%で最も高く、次いで「ストレスが発散できること」、「体力、技術が向上すること」である。
- 平成 26 年に比べて 5 ポイント以上増加しているのは「仕事や学業に対する意欲がわくこと」(7.1 ポイント増加)、「体力、技術が向上すること」(6.2 ポイント増加)である。逆に 5 ポイント以上減少しているのは「子どもから高齢者まで交流が広がること」(5.9 ポイント減少)である。
- スポーツの実施状況別にみると、「青少年の健全な育成が図られること」はスポーツをしている人で割合が高い。

図表 88 松本市がスポーツを推進するにあたって期待すること〔複数回答〕



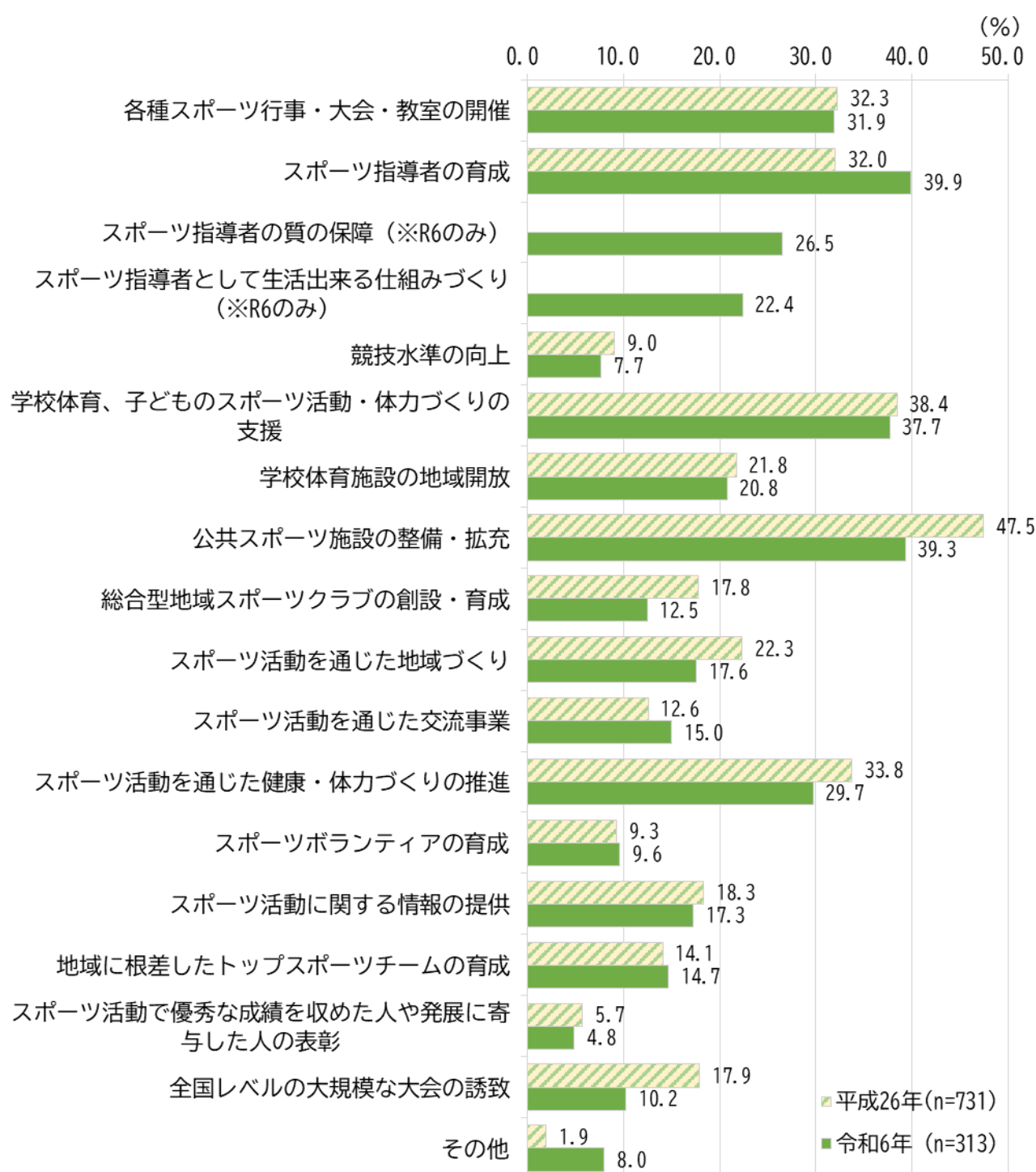
図表 89 〈スポーツの実施状況別〉松本市がスポーツを推進するにあたって期待すること〔複数回答〕



(2) スポーツ推進に向け松本市に力を入れてほしいこと

- スポーツを推進するため、松本市に力を入れてほしいこととしては、「スポーツ指導者の育成」の割合が39.9%、「公共スポーツ施設の整備・拡充」が39.3%、「学校体育、子どものスポーツ活動・体力づくりの支援」が37.7%である。
- 平成26年に比べて5ポイント以上増加しているのは「スポーツ指導者の育成」(7.9ポイント増加)で、5ポイント以上減少しているのは「公共スポーツ施設の整備・拡充」(8.2ポイント減少)、「全国レベルの大規模な大会の誘致」(7.7ポイント減少)、「総合型地域スポーツクラブの創設・育成」(5.3ポイント減少)である。

図表 90 スポーツを推進するため、松本市に力を入れてほしいこと〔複数回答〕



- スポーツを推進するため、松本市に力を入れてほしいことを、スポーツの実施状況別、年代別にみると、どの層においても上位3項目は「スポーツ指導者の育成」、「公共スポーツ施設の整備・拡充」、「学校体育、子どものスポーツ活動・体力づくりの支援」が入っている。加えてスポーツをしていない人では「各種スポーツ行事・大会・教室の開催」、60代以上は「スポーツ活動を通じた健康・体力づくりの推進」が含まれている。

図表 91 〈スポーツの実施状況別〉〈年代別〉

スポーツを推進するため、松本市に力を入れてほしいこと〔複数回答〕

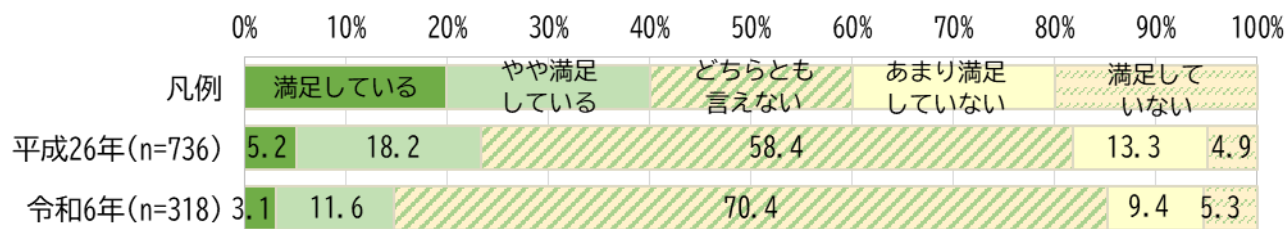
	スポーツの実施状況		年代		
	スポーツをしている(n=159) (%)	スポーツをしていない(n=154) (%)	10～30代(n=89) (%)	40・50代(n=99) (%)	60代以上(n=125) (%)
各種スポーツ行事・大会・教室の開催	30.8	33.1	32.6	31.3	32.0
スポーツ指導者の育成	40.3	39.6	34.8	38.4	44.8
スポーツ指導者の質の保障	23.9	29.2	29.2	27.3	24.0
スポーツ指導者として生活出来る仕組みづくり	27.7	16.9	25.8	23.2	19.2
競技水準の向上	8.2	7.1	13.5	5.1	5.6
学校体育、子どものスポーツ活動・体力づくりの支援	42.1	33.1	46.1	35.4	33.6
学校体育施設の地域開放	23.3	18.2	29.2	18.2	16.8
公共スポーツ施設の整備・拡充	42.1	36.4	47.2	39.4	33.6
総合型地域スポーツクラブの創設・育成	15.1	9.7	18.0	10.1	10.4
スポーツ活動を通じた地域づくり	23.3	11.7	24.7	9.1	19.2
スポーツ活動を通じた交流事業	18.9	11.0	24.7	14.1	8.8
スポーツ活動を通じた健康・体力づくりの推進	36.5	22.7	23.6	24.2	38.4
スポーツボランティアの育成	10.7	8.4	14.6	9.1	6.4
スポーツ活動に関する情報の提供	19.5	14.9	16.9	16.2	18.4
地域に根差したトップスポーツチームの育成	17.6	11.7	19.1	13.1	12.8
スポーツ活動で優秀な成績を収めた人や発展に寄与した人の表彰	6.3	3.2	9.0	5.1	1.6
全国レベルの大規模な大会の誘致	10.7	9.7	13.5	6.1	11.2
その他	8.2	7.8	3.4	12.1	8.0

※上位3位に網掛けをしている

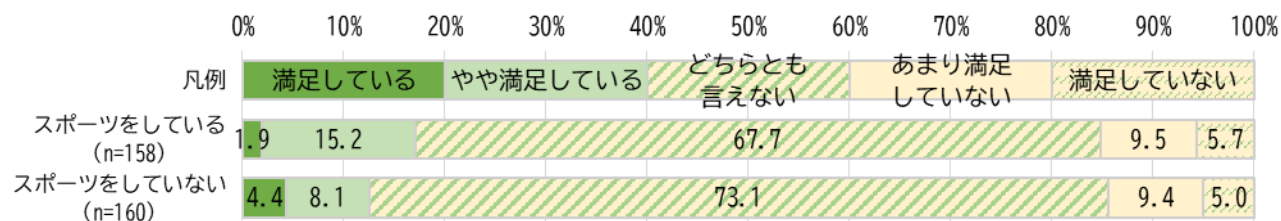
(3) 松本市のスポーツ環境の満足度

- 松本市のスポーツ環境に「満足している」「やや満足している」を合わせた割合は 14.7%で、平成 26 年の 23.4%から 8.7 ポイント減少している。
- 一方、「あまり満足していない」または「満足していない」と答えた人は 14.7%で、平成 26 年の 18.2%から 3.5 ポイント減少しており、「どちらともいえない」の割合が 58.4%から 70.4%と 12.0 ポイント増加している。
- スポーツの実施状況別にみると、「満足している」「やや満足している」を合わせた割合は、スポーツをしている人では 17.1%、スポーツをしていない人では 12.5%となっており、差は 4.6 ポイントとなっている。
- 年代別にみると、60 代以上で「満足している」「やや満足している」を合わせた割合が下がっている。

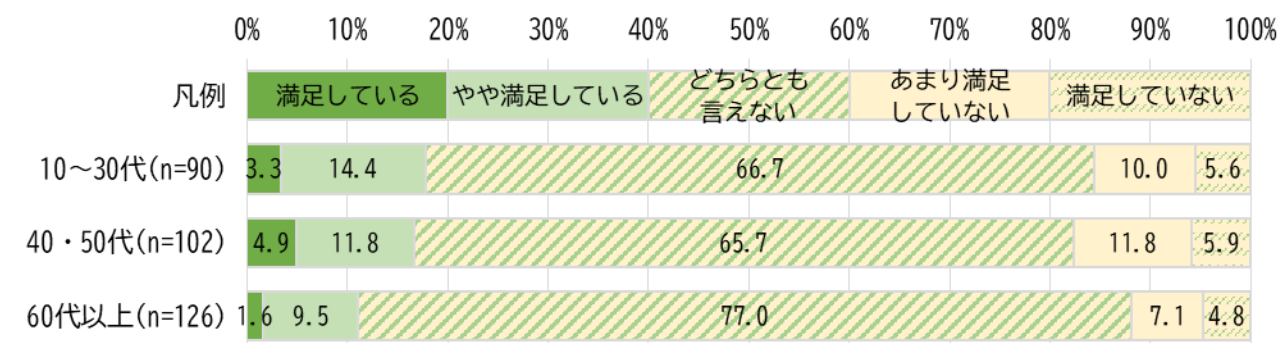
図表 92 松本市のスポーツ環境（施設、指導者、イベント等）の満足度



図表 93 〈スポーツの実施状況別〉松本市のスポーツ環境の満足度



図表 94 〈年代別〉松本市のスポーツ環境の満足度



図表 95 意見・要望／満足していない点【自由記述】

2. やや満足している		
女性	40 代	子どもの頃の体育でできないことが多く、いつも楽しくなかった。運動が面白くないと思って大人になっても何も興味を持たなかったが、年齢とともに運動の必要性を感じて取り組み始めた。小さい時から楽しく習慣化することが健康につながると思います。E スポーツも体の動きを必要とするので、日常に取り入れるには楽しいと思う。大きなスポーツ大会の誘致で一時活性化されるよりも恒常的に市民が親しめるように予算を使う方が将来的には良いのではないかと感じる。施設のトイレのバリアフリー化や新設は大切だと思う。
3. どちらとも言えない		
女性	30 代	先述したように、雪国であるからこそ室内の遊び場（3 歳未満児の施設はいくつかあるが、幼稚園以上児の遊び場）を充実させてほしい。松本市に戻ってきて車社会になったこともあるが、子ども大人ともに運動量がすごく減った。
女性	30 代	学校の先生が部活でスポーツ指導するのは大変だと思う（体力的、技術的に）。スポーツ指導をしたいと思っている人が、指導する環境が整うのが良いと思う。
女性	40 代	問 57 について 運動系以外の部活もでしょうか、吹奏楽部など指導者の考えに従う事が多い部活も以降できるのか？ と思いました。
女性	40 代	スポーツの幅がせまい。やりたくても、やりたくないものが充実しているように見える。あと、何かやるにしても金額がかかると難しい、家計は厳しい。
男性	50 代	人と時間に余裕があればもっとスポーツを楽しみたいと思います
男性	50 代	問 56 について 教員の時間外削減ではない？
男性	50 代	松本マラソンは必要か？ 他の競技にしてみてもどうか？
女性	50 代	松本市のスポーツ環境についてあまり関心がなく、市の取り組みをよく知らないため、Q60 では、どちらとも言えないを選択しました。スポーツ観戦は好きですが、私自身も、自身の子どもたちも文化系部活ばかりで、スポーツをやることに無縁でしたので、参考にならない回答ばかりで申し訳ないです。それでも、地域の子どもたちがかなり減っている現状でも、やりたい競技にまずは気軽に参加できる環境が少しでも整えられることを願います。
女性	50 代	子供たちがスポーツを行う中で指導者が居ない、少なく、学校では専門ではない先生が顧問だったりして、活動が充実していないことを耳にします。指導者が仕事や生活を犠牲にすることがないような仕組みを考えてください。
男性	60 代	松本市のスポーツ事業推進もほかの部署と連携を取ってほしい。松本市は一部一課の企画でいつも空回りしていると感じる
男性	60 代	山岳スポーツ（登山）にも力を入れて頂ければ。
女性	60 代	もう年で参加は難しい
女性	60 代	松本市でやってくださっている現在の状況が分かりません。お役に立てず申し訳ございません。
男性	70 代以上	アンケート用紙の問 2 に 80 代の選択肢がなかった。80 代は対象外として欄を設けていないのか。そうだとすれば回答したくない
女性	70 代以上	運動はしませんのでわかりません

4. あまり満足していない		
無回答	10 代	より多くの施設を手軽に利用できるようにして欲しい。
男性	20 代	屋内テニスコートを増やしてほしい
女性	20 代	スポーツを行える施設が足りない
女性	20 代	部活の顧問の先生がやりがいを感じるだけのお給料を出す。学校でスポーツをしたい子供を育てられる外部指導員を付ける。というようなことをしてあげてほしい。
男性	30 代	自由にサッカーができる環境を提供して欲しい。人工芝グラウンドを自由に使用できるなど。体育館も自由に使えるようにして欲しい。
男性	30 代	スポーツが多様化する中、やりたいスポーツが出来る環境が必ずしも整っているとは言い難い。
女性	30 代	施設が足りない。また、施設が老朽化している。甥っ子が山雅ユースに所属しているが、雁金の施設（人工芝）が老朽化しており、張り替えるのに代替施設がないのではないかと。また、各年代が同じような時間に練習しておりグラウンドが狭く危険である。
女性	30 代	スポーツの習い事が少ない（体操教室の数も少ない）
男性	40 代	イベント推進への積極性が感じられない。地域イベントもほとんどない。施設も少ない。情報も少ない。
女性	40 代	子どもたちの自由なスポーツの場がない。そのために道でバスケットボールの球をつく。それも2～5人の子どもが1人一つドリブルをする。すごく迷惑です
女性	40 代	公園が少ないので増やして欲しい
男性	50 代	色々な事をして頂いているのだと思いますが、正直、松本市がスポーツ振興やスポーツ環境の向上を本気でしたいとは実感としてあまり感じません。もし、松本市がスポーツ振興や環境向上の考えをもっているなら、もの凄く期待します。プロスポーツから高齢者スポーツまで、県内でスポーツと言えば松本市と言われる位にして欲しいです。競技スポーツでも小学生から高校生まで県内で優位なスポーツはたくさんあります。土壌があるということです。また健康に対する意識も高く、スポーツを支援する風土やスポーツをしようとする意識は高いと思います。ここにも土壌があるという事です。この土壌を活かしてなく、とても勿体ないと思います。プロスポーツで言えば B リーグ信州ブレイブウォリアーズの本拠地を松本にも可能性があるので長野に持っていかれたのはとても残念でした。山雅もそうですが、思い切った対応が必要だと思います。全国的にはプロスポーツの施設支援を行なっている地公体はたくさんあると思います。松本マラソンにはいろんな意見があると思いますが、試行錯誤しながら継続して行って欲しいです。ツールド美ヶ原は認知度が低く勿体ないと思います。一部、市街地を通るようにしてみるのも認知度を上げるためには良いのではないかと思います。元々、松本市は学都、楽都と言われるように文化的には評価されていると思いますが、ここにスポーツが加われば都市力的にも魅力ある都市になると思います。人口減少の時代、地公体のブランディング力が存続の分かれ道だと思います。スポーツで人が集まる。スポーツで健康寿命が長くなる。松本市の為、市民の為に幅広いスポーツ振興を期待します。

女性	50代	雨天時に利用できる施設、夏季冬季両方に利用できる施設が少ない。ウォーキングコースがあっても、街灯がなく女性の夜間の利用など難しい。歩道が狭く、ウォーキングや散歩に適していない事など
女性	50代	近くに柔剣道場等あるが、施設の利用の仕方等わかれば良いと思う
男性	60代	時間制限があってもよいので、無料駐車場の整備をして、人を集客する努力してほしい。
男性	60代	民間活動の利用が不十分。総合型のスポーツクラブ、山雅の拡大でも可。
女性	60代	個人的には、熟年体育大学が無くなり、時期を同じくして足腰を悪くしてしまったため、運動の機会が無くなってしまった。高齢者が、リハビリを兼ねた運動が出来るような機会があればうれしい。施設に行くのも大変な方のために、乗合タクシーのようなもので、費用援助があればうれしい。
女性	60代	施設の老朽化。プロスポーツもっと観たい。
男性	70代以上	スポーツ施設の増設など手軽に使える様になると嬉しい
女性	70代以上	自分が住んでいる場所から遠いので行きづらい。
女性	70代以上	旧市街と周辺地区の設備情報、開催に差があり身近に気軽に接する機会が限られていること。遠く移動が不便。
5. 満足していない		
男性	20代	総合体育館でしかいろいろなスポーツの教室をやっていないので、南に住んでいると遠くて行けない（広報に載っているのは総合体育館ばかり）
男性	30代	松本市全体で盛り上がることでできる競技を増やしてほしい。松本山雅が頑張っているが、もっともっと結果が残せるよう、市としてももっと盛り上げたいと思う。他の競技でも全国に自慢できる競技を増やすべき。小中学生からいい指導や環境を整えないと、他地区や他地域に出ていってしまう。松本マラソンももう少し案内をどんどん出して、人数を集めた方が盛り上がると思う。（開催決まった頃よりも、参加者集めの案内を見かけなくなっている気がします。）
女性	30代	イベントが、少ない。参加するまでの気持ちにならない。
女性	30代	子どもたちが種目選択をしていく際に、充実しているスポーツとそうでないスポーツと片寄りを感ずる。様々な種目の指導者がいて、子どもたちの選択肢が広がることが望ましいと思う。また、私がやってきたフィギュアに関して言うと、練習環境が松本になく遠くまで練習環境を求めて行くことが必要で、続けたくても家族の協力が得られずにやめていく子が沢山いた。全ての競技の充実というのは、現実的に難しいことはわかっていますが、山雅（サッカー）以外のスポーツに対する支援ももっとしていただけると嬉しい。
男性	40代	口だけでなにもしていないと思っている。松本市には期待していない
女性	40代	松本市は芸術方面の方がイメージが強く、スポーツは印象が薄い気がする。子ども、大人含めて健康増進にもっと力を入れると良い
女性	40代	施設が少ない
女性	40代	・スポーツクラブの存在が分かりにくい。 ・参加しにくい。

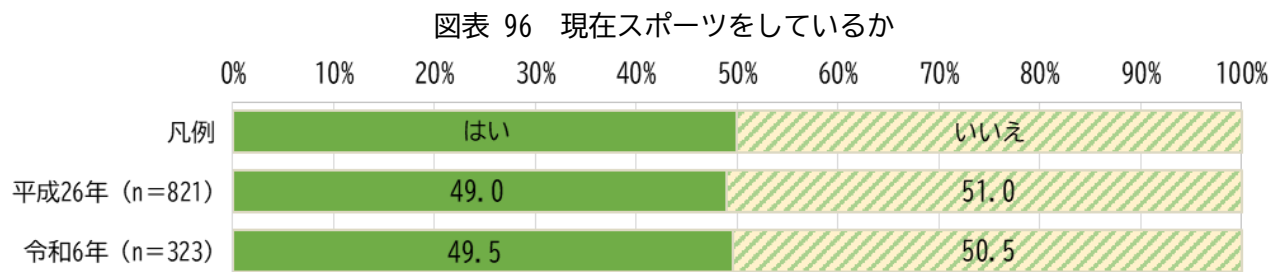
女性	40 代	1 体を動かすことが好きな人はスポーツ施設がなくても野原でもかけ回って体を動かしています。海外みたいに公園に体を動かす道具を置いたり、アスレチックの大型をもっと作ってほしいです。その際、小さい子と大きい子を別々にしてほしい。10 歳～16 歳までとか。せっかくの芳川公園のアスレチックとかも大きい子たちが小さい子に気を遣って遊んでいるのを見ると気の毒に感じます。 2 室内プールは今サムとかが経営しています。子どもの数が多すぎてそれに圧倒されて通えない子もいる。松本市の笹賀とかにもう一つ室内プールを作ってほしい。
男性	50 代	中学、高校の先生が部活に一生懸命すぎてハラスメントや怪我があった。指導者の質と指導者と生徒両方の健康管理をしっかりとしてほしい。
男性	60 代	一般的でない
男性	60 代	松本市は悪天候や冬場など、外に出られない為屋内型の施設が特にほしい。子供や高齢者向けの施設は全くなく、特に子供のための未来館、科学館は他地域にくらべて貧相で松本（学都）らしくない。スポーツ施設と兼ね備えた施設を作ってほしい。観光誘致にもつながると思います。
男性	60 代	障害者用の施設や指導者も少なく、市民の理解も低く、差別されることもある。スポーツ施設も郊外にあるので、交通機関も少なく車がないと行くことも利用することもない
女性	60 代	施設まで行く公共交通機関が少ない

第3章 考察

1. スポーツ実施状況・今後の意向など

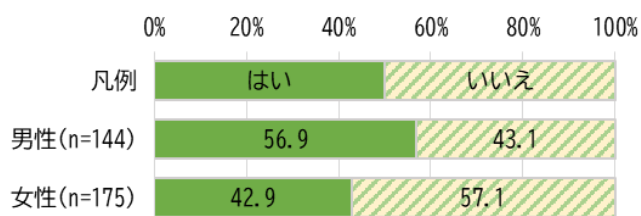
(1) スポーツの実施状況

現在スポーツをしている人の割合（実施率）は49.5%である。平成26年は49.0%であり、横ばいで推移している。



男女別にみると、男性 56.9%に対して女性は 42.9%と低い。また年代別にみると、40 代以下の若い世代で実施率が低く、50 代以上では回復傾向にある。

図表 97 現在スポーツをしているか（男女別）



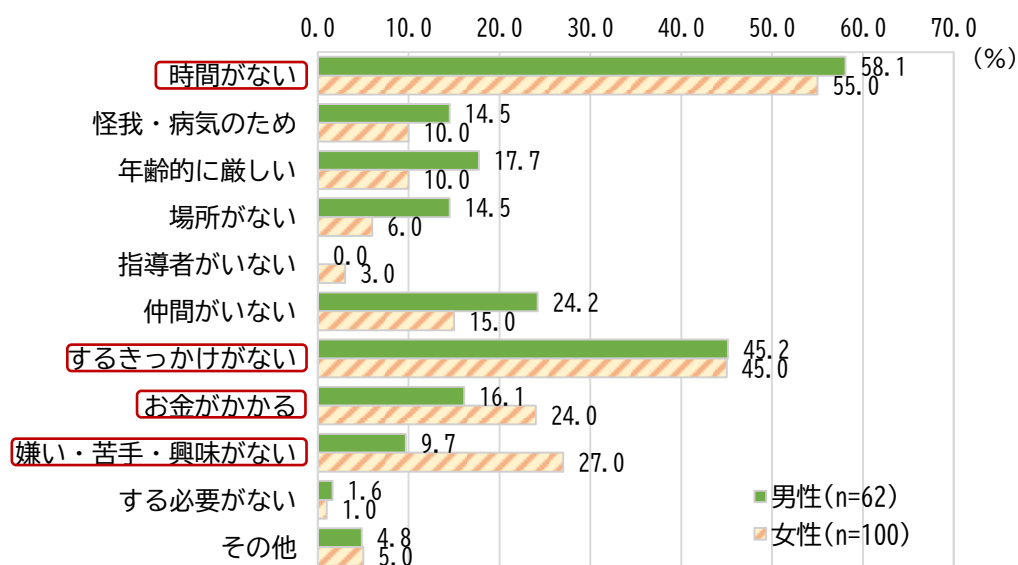
図表 98 現在スポーツをしているか（年代別）



(2) 女性や若い世代がスポーツを実施していない理由

スポーツ未実施の理由は、男女問わず「時間がない」「するきっかけがない」の割合が高い。一方、特に女性で顕著なのが「嫌い・苦手・興味がない」「お金がかかる」である。

図表 99 〈回答対象者：現在スポーツをしていない人〉スポーツをしていない理由（男女別／複数回答）



年代別にみると、50 代以下の層で「時間がない」「するきっかけがない」の割合が高い。また「お金がかかる」は 40・50 代で、「嫌い・苦手・興味がない」は 10～30 代で特に割合が高くなっている。

図表 100 〈回答対象者：現在スポーツをしていない人〉スポーツをしていない理由（年代別／複数回答）

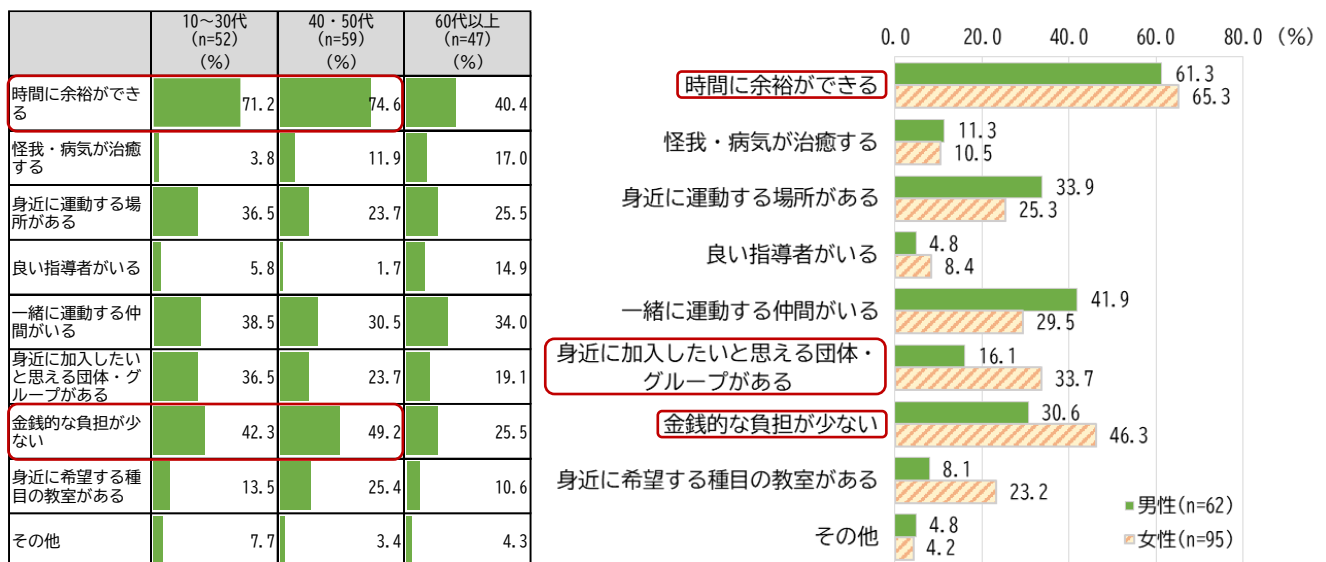
	10～30代(n=52) (%)	40・50代(n=59) (%)	60代以上(n=52) (%)
時間がない	67.3	62.7	36.5
怪我・病気のため	3.8	11.9	19.2
年齢的に厳しい	0.0	8.5	30.8
場所がない	15.4	6.8	5.8
指導者がいない	3.8	0.0	1.9
仲間がいない	21.2	20.3	13.5
するきっかけがない	50.0	49.2	34.6
お金がかかる	21.2	32.2	7.7
嫌い・苦手・興味がない	30.8	16.9	15.4
する必要がない	1.9	0.0	1.9
その他	3.8	5.1	5.8

以上から、仕事や育児などによる時間的制約の大きい世代で、時間の確保が難しいとともに、スポーツをするきっかけが少ない傾向にある。加えて、女性や 40・50 代では、金銭的負担がスポーツ未実施の要因となっている。また、女性や 30 代以下ではスポーツに対する苦手意識をもつ人や、興味をもっていない人が多い。

（３） 女性や若い世代が今後スポーツに取り組むための条件・今後取り組みたい種目

10～30 代や 40・50 代でスポーツをしていない人が、今後取り組むための条件の上位は「時間に余裕ができる」「金銭的な負担が少ない」である。女性では、上記の 2 項目のほか、「身近に加入したいと思える団体・グループがある」も割合が高く、男性に比べて顕著となっている。

図表 101 〈回答対象者：現在スポーツをしていない人〉
今後、スポーツに取り組む条件（左：年代別、右：男女別／複数回答）



以上から、スポーツ実施率が相対的に低い女性や若い世代がスポーツを実施するためには、時間の制約がある中でもスポーツに取り組めるような環境の整備や、参加する際の金銭的な負担の軽減、身近でニーズに沿った場の確保などが必要であると考えられる。

具体的にこういった種目が女性や若い世代の関心を集めているのかをみると、ヨガ・ピラティスへの関心が最も高く、次いでウォーキングとなっている。

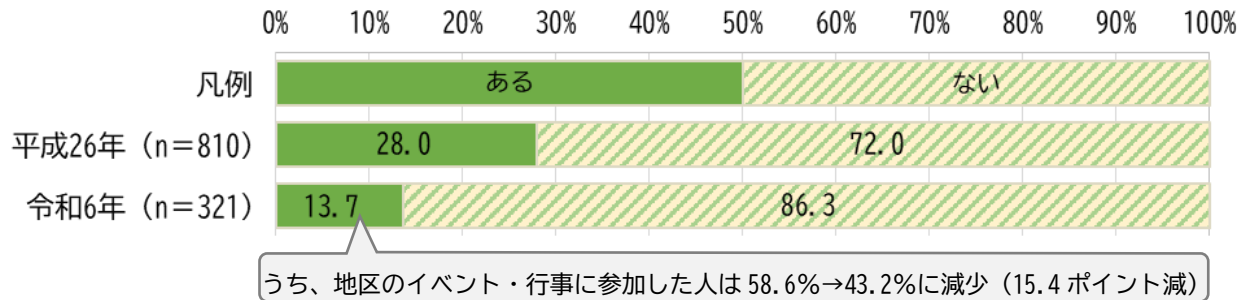
図表 102 今後取り組みたいスポーツ（左：女性、右：40代以下／複数回答）

女性				
種目名	割合 (%)	1位	2位	3位
ヨガ・ピラティス	36.0	10・20代 ヨガ・ピラティス	ウォーキング	バスケットボール／弓道
ウォーキング	32.8	30代 ウォーキング／ヨガ・ピラティス	バスケットボール	－
ラジオ体操・健康体操など	17.6	40代 ヨガ・ピラティス	ウォーキング／水泳／バドミントン	－
水泳	8.8			
バドミントン	8.0			

（４） スポーツイベント・行事への参加状況

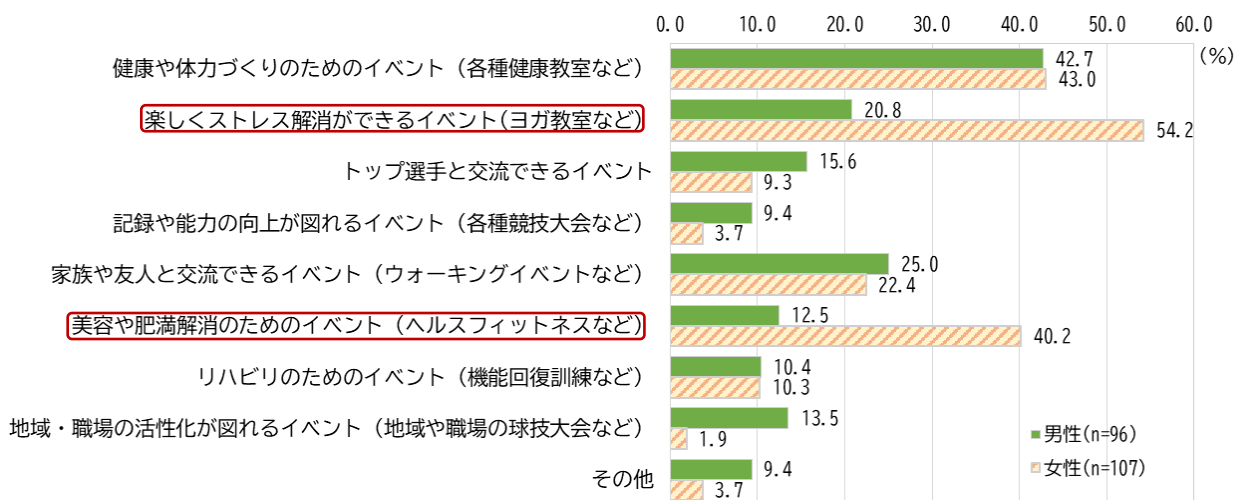
スポーツイベント・行事への参加状況は13.7%で、前回調査から14.3ポイント低下している。特に、地区のイベント・行事に参加した人が特に大きく減少していることから、コロナ禍を背景としたイベント・行事の開催数の減少が影響していると考えられる。

図表 103 前年1年間にスポーツイベント・行事に参加したか



今後参加したいイベントでは、女性で「楽しくストレス解消ができるイベント（ヨガ教室など）」や「美容や肥満解消のためのイベント（ヘルスフィットネスなど）」のニーズが高くなっている。

図表 104 今後参加したいイベント（男女別／複数回答）



10～30代においても、「楽しくストレス解消ができるイベント（ヨガ教室など）」や「美容や肥満解消のためのイベント（ヘルスフィットネスなど）」が上位となっている。40・50代では上記に加えて「健康や体力づくりのためのイベント（各種健康教室など）」や「家族や友人と交流できるイベント（ウォーキングイベントなど）」もニーズが高い。

図表 105 今後参加したいイベント（年代別・複数回答）

	10～30代(n=44) (%)	40・50代(n=65) (%)	60代以上(n=96) (%)
健康や体力づくりのためのイベント（各種健康教室など）	 15.9	 36.9	 58.3
楽しくストレス解消ができるイベント（ヨガ教室など）	 45.5	 43.1	 32.3
トップ選手と交流できるイベント	 27.3	 12.3	 6.3
記録や能力の向上が図れるイベント（各種競技大会など）	 18.2	 3.1	 4.2
家族や友人と交流できるイベント（ウォーキングイベントなど）	 27.3	 30.8	 18.8
美容や肥満解消のためのイベント（ヘルスフィットネスなど）	 45.5	 30.8	 16.7
リハビリのためのイベント（機能回復訓練など）	 9.1	 4.6	 14.6
地域・職場の活性化が図れるイベント（地域や職場の球技大会など）	 9.1	 6.2	 8.3
その他	 0.0	 4.6	 10.4

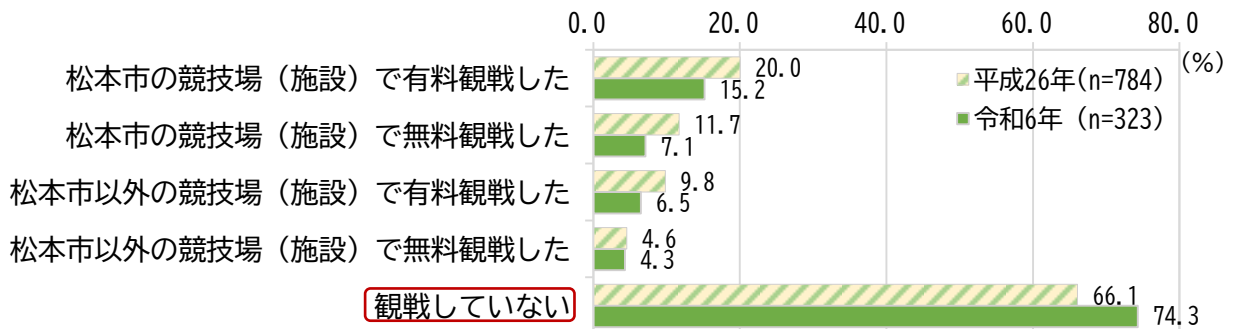
コロナ禍の影響下でイベントや行事への参加機会が減少するなか、女性や若い世代のニーズを踏まえつつ、楽しみながら気軽に参加できるきっかけを提供することが、スポーツ実施率の向上を目指すうえで重要である。

2. スポーツの観戦や支える活動の状況

(1) スポーツの観戦状況

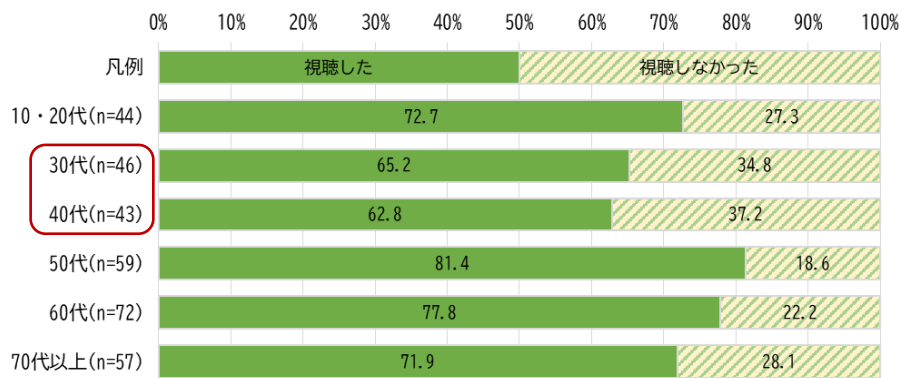
前年に「競技場（施設）で観戦していない」の回答割合は、平成 26 年は 66.1%であるが、令和 6 年では 74.3%となり、競技場（施設）でスポーツ観戦をしている人は減少傾向にある。

図表 106 前年 1 年間に競技場（施設）で観戦したか（複数回答）



またテレビ・インターネット・ラジオなどでスポーツを視聴した人は、平成 26 年には 88.9%であるが、令和 6 年には 72.6%となっており、16.3 ポイント減少している。特に 30～40 代で視聴割合が低く、スポーツへの関心が低い傾向にある。

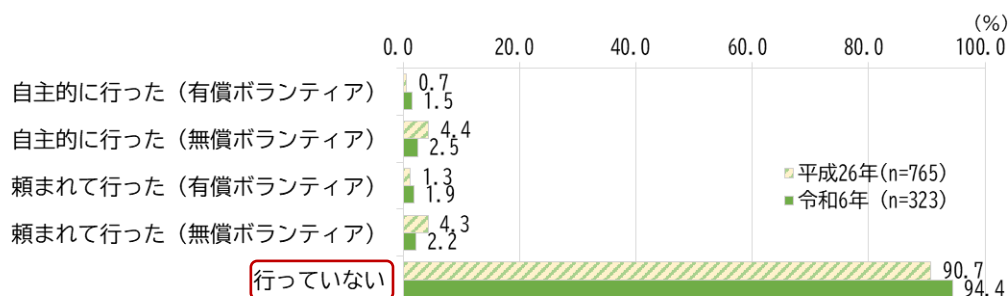
図表 107 令和 5 年度の 1 年間に、テレビ・インターネット・ラジオなどでスポーツを視聴したか（年代別）



(2) スポーツ関係のボランティア活動

スポーツ関係のボランティア活動を行った割合は、平成 26 年調査から横ばいで推移しており、行っていない人が 94.4%と大半となっている。

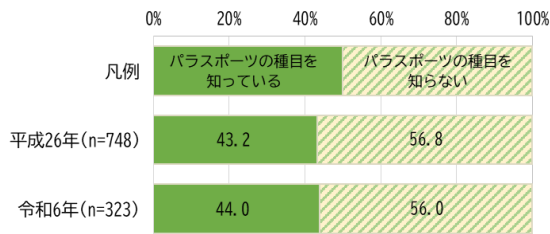
図表 108 前年 1 年間に、スポーツの指導、イベント協力などでボランティア活動を行ったか（複数回答）



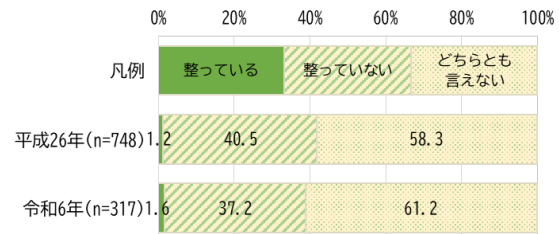
3. パラスポーツの状況

パラスポーツの種目を知っている人は44.0%で、平成26年から横ばいで推移している。また、年齢や状態を問わず、介助が必要な人もスポーツができる場所や仕組みが整っていると思う人は1.6%、整っていないと思う人は37.2%で、平成26年から大きく変化していない。

図表 109 パラスポーツの種目を知っているか

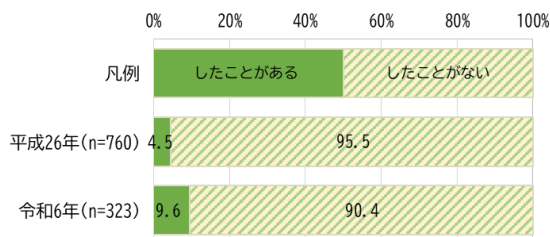


図表 110 年齢や状態を問わず、介助が必要な人もスポーツができる場所や仕組みが整っていると思うか

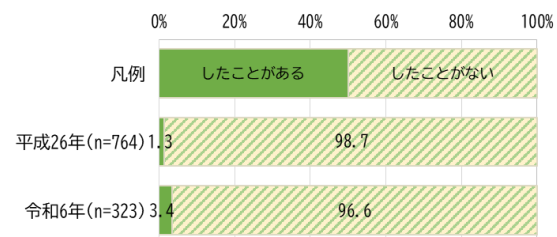


一方、障がい者と一緒にスポーツをしたことがある人は9.6%、パラスポーツのボランティアをしたことがある人は3.4%で、平成26年と比べ、わずかながらそれぞれ上昇している。

図表 111 障がい者と一緒にスポーツをしたことがあるか



図表 112 パラスポーツのボランティアをしたことがあるか



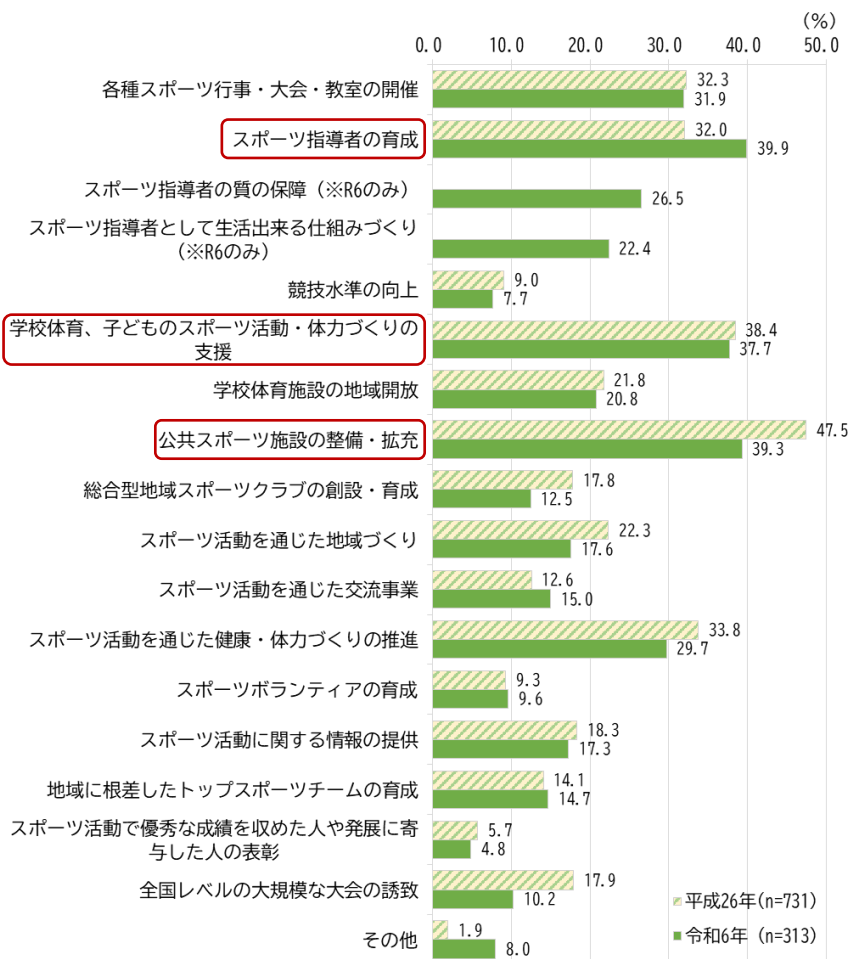
以上から、パラスポーツに対する認知や環境の整備にはまだ改善の余地があるものの、障がいの有無にかかわらず、ともにスポーツを楽しむ機運は広がっている傾向にあると言える。

4. スポーツ推進計画に対する期待 ～指導者育成、施設、子どものスポーツ活動

(1) スポーツ推進のため力を入れてほしいこと

スポーツを推進するため、松本市に力を入れてほしいこととしては、「スポーツ指導者の育成」の割合が39.9%、「公共スポーツ施設の整備・拡充」が39.3%、「学校体育、子どものスポーツ活動・体力づくりの支援」が37.7%である。

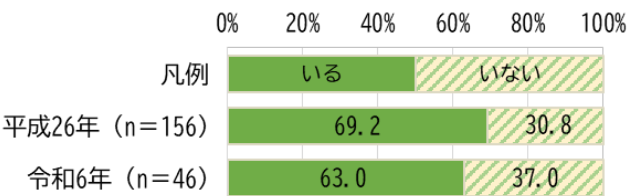
図表 113 スポーツを推進するため、松本市に力を入れてほしいこと（複数回答）



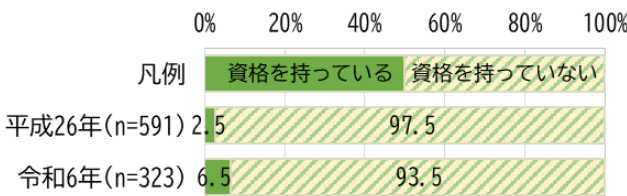
(2) スポーツ指導者の育成

何らかのスポーツ団体・グループに加入している人に指導者の有無を聞くと、「いる」と答えた人が63.0%で、平成26年の69.2%から6.2ポイント低下している。一方、スポーツ指導の資格を持っている人は6.5%で、平成26年に比べて4.0ポイント増加している。引き続き資格の取得を後押しすることや、資格を取得した人が活躍できる場を設けるなど、指導者を育成するための取組みが求められている。

図表 114 〈回答対象者：団体・グループに所属している人〉
所属団体・グループに指導者がいるか



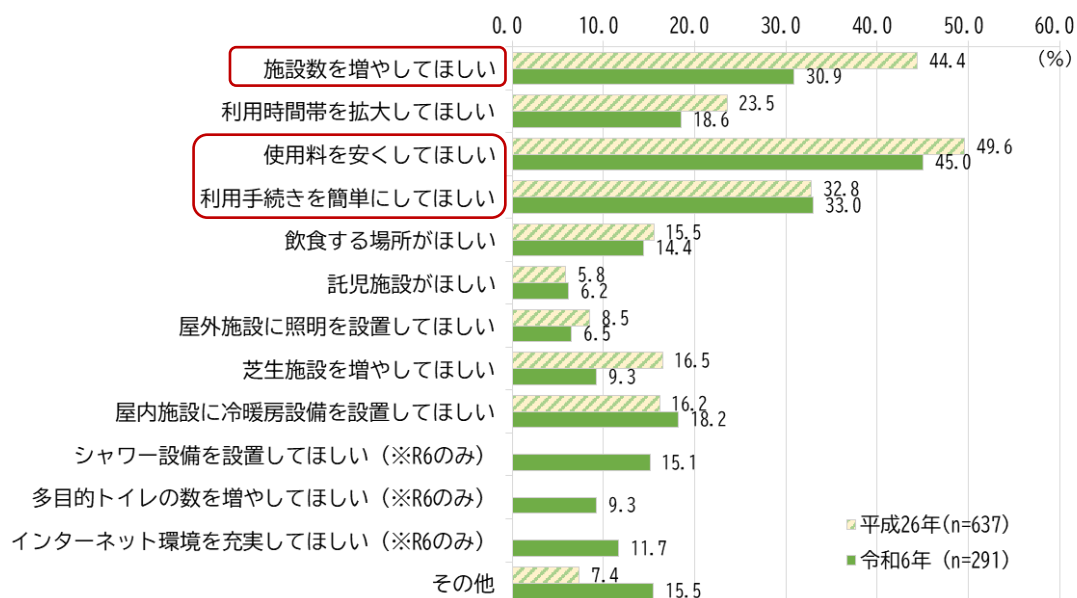
図表 115 スポーツ指導の資格を持っているか



(3) スポーツ施設の整備・拡充

調査対象者がスポーツをした主な場所は、「県・市のスポーツ施設」「公園・広場」がそれぞれ3割程度で相対的に高い割合となっている。施設に対する要望は「使用料を安くしてほしい」「利用手続きを簡単にしてほしい」といった、既存施設の利便性向上を望むものが上位となっている一方、「施設数を増やしてほしい」と答えた人の割合は平成26年から大きく低下しており、施設数増加のニーズは下がっている。

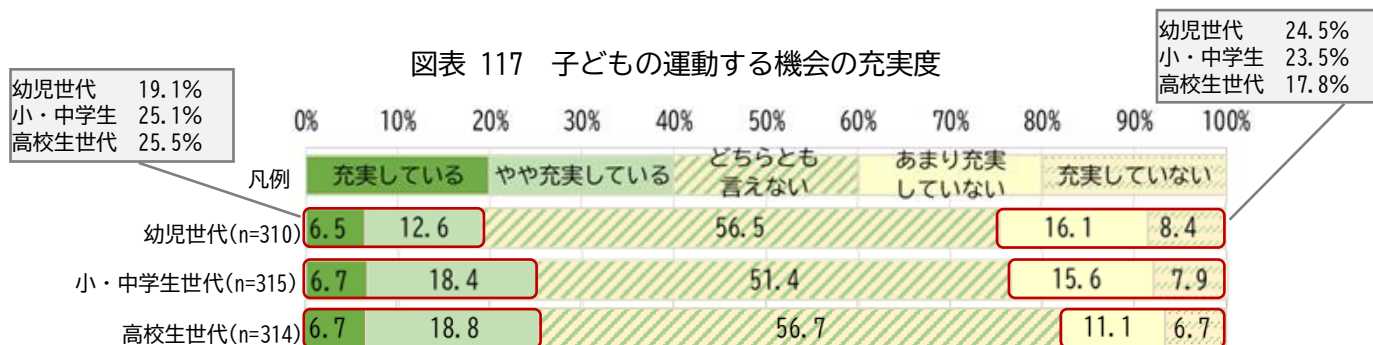
図表 116 スポーツ施設に関して望むこと（複数回答）



(4) 学校体育、子どものスポーツ活動・体力づくりの支援

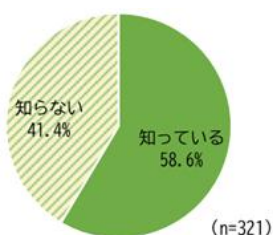
子どもの運動する機会について、幼児世代では「充実していない」「あまり充実していない」と考える人がやや多く、小・中学生世代と高校生世代では「充実している」「やや充実している」と考える人がやや多い。幼児期からスポーツに親しむ機会を、一層充実させることが求められていると言える。

図表 117 子どもの運動する機会の充実度



中学校部活動の地域移行が実施されようとしていることを知っている人は6割弱だが、移行の時期など詳細まで知っている人は25.9%である。さらなる周知を行い、地域の協力体制を築くことが必要である。

図表 118 地域移行 実施の認知度



図表 119 令和8年度までに地域移行の実施が目指されていることの認知度

